

貯留施設の低水位管理等

- 降雨による内水位の上昇に伴う家屋浸水を防ぐことを目的とし、雨水貯留施設の貯留機能を確保するため、低水位管理ができるよう**水中ポンプを整備(増設)**する。

■実施箇所

大崎上島町中野(西唐樋)



■事業概要

西唐樋の貯留施設は約3.3haで、約232.8haの流域の雨水が流れ込む。

現在は排水機場ポンプ2基(φ400とφ800)により排水を行っているが、管理水位(稼働水位)に限界があり、豪雨の際は内水の上昇により家屋浸水が発生している。したがって、出水期及び豪雨前に内水を強制排水し、低水位管理ができるよう水中ポンプ2基(φ200)を整備する。

ポンプ規格： φ200吐出量5m³/min

■効果

管理水位T.P-1.70 → T.P-2.30 ⇒ 60cmの水位減

■実施期間

令和5年度～

避難行動要支援者への支援



- 要配慮者に対する避難支援体制の整備等のため、**避難行動要支援者名簿及び個別支援計画を策定する。**

■実施箇所

大崎上島町内全域(各地区)

■事業概要

災害の発生に備え、避難行動要支援者に関する情報を平常時から収集し、避難行動要支援者名簿を作成・管理するとともに、一人ひとりの避難行動要支援者に対して複数の避難支援者を定める等、具体的な避難支援プランを策定し、避難行動要支援者に対する援護が適切に行われるよう努める。

■実施期間

～令和7年度

防災拠点の浸水対策

- 災害発生時の停電に備え、避難所となる**各地区集会所に太陽光発電を整備**する。

■実施箇所

大崎上島町内全域(各地区)

■事業概要

災害発生時の避難所として、町内各地区の集会所を避難所に指定しているが、いずれの集会所も太陽光発電が整備されておらず、災害発生時の停電に対応できないため、順次太陽光発電を整備し、不測の事態に備える。

箇所数:33箇所

■実施期間

令和3年度～



関係機関との各種連携

- 関係機関とのネットワークを構築するため、在宅医療・介護連携や生活支援など、災害時の支援方法について、**各種会議や連絡会等で情報交換を行う。**

■実施箇所

大崎上島町内全域(各地区)

■事業概要

社会福祉協議会、自治会、民生委員・児童委員、行政、ボランティア、地域包括支援センターなどにより、平時から機能するネットワークを構築するとともに、各種会議や連絡会等で情報交換を行い、在宅医療・介護連携や生活支援など、災害時の支援方法について検討する。

■実施期間

継続実施中

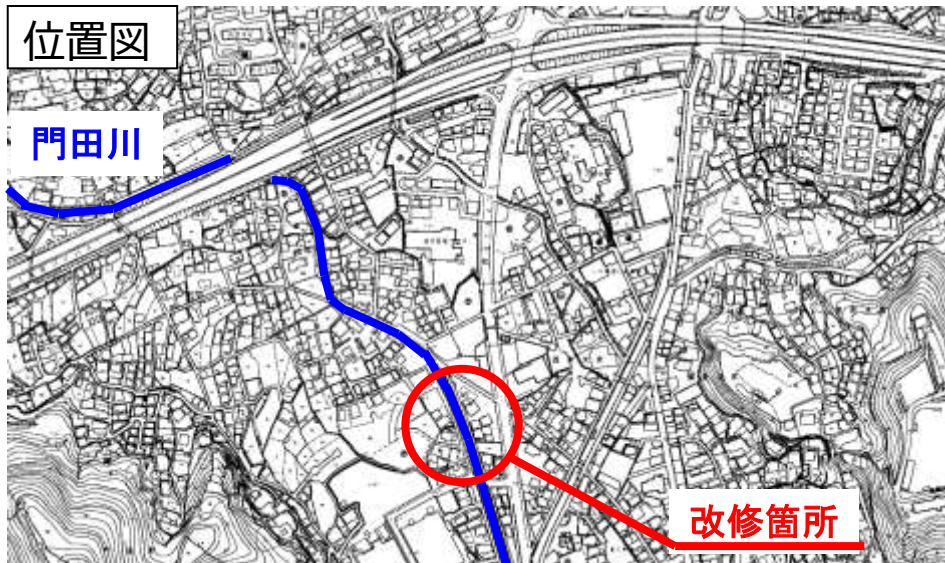


普通河川の改修

- 平成30年7月豪雨災害により、**脆弱した河川護岸の強靱化を実施**することで、市民の安全・安心な生活環境を確保する。

- 実施内容 尾道市門田町地内の「門田川」において、両岸に法覆護岸工を実施する。
- 実施期間 令和4年度 ~ 令和7年度

位置図



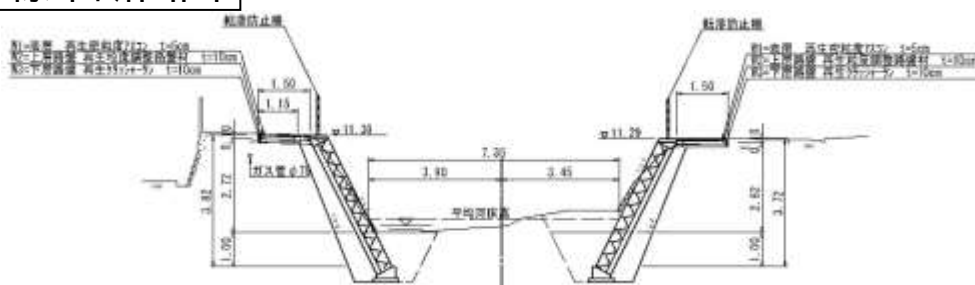
施工前



施工後



標準断面図



雨水排水施設の整備

- 内水被害リスクを軽減するため、**内水排水ポンプ施設の整備**(更新及び能力向上:1箇所)。

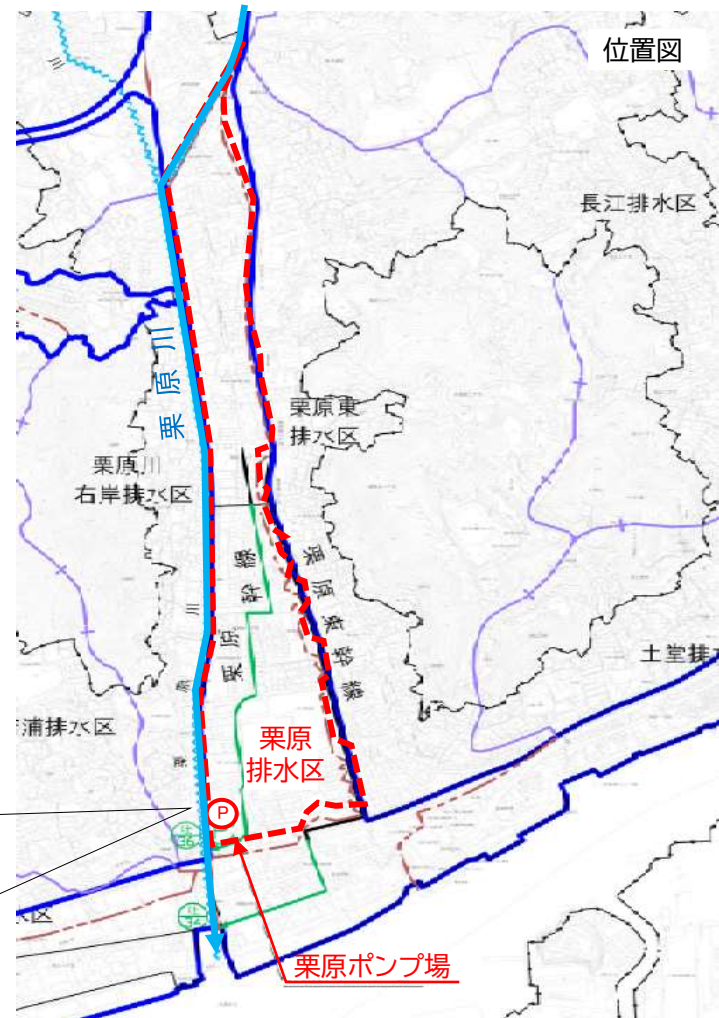
■効果

老朽化した施設を更新すると同時に、能力向上(増設)により、対象排水区内の内水被害リスクを軽減することができる。

■実施期間

令和2年度に検討、令和3年度より設計に着手。

令和7年度より土木工事に着手。



水災害リスクを考慮したまちづくり・住まい方の工夫

立地適正化計画の策定・運用

 尾道市

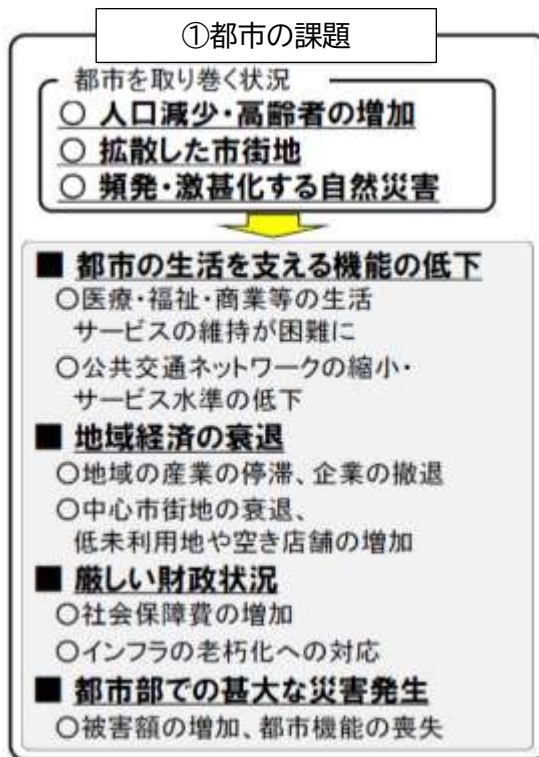
- 都市全体を見渡しながらかつ将来の都市像を描き、各地域の拠点への居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、拠点の形成と拠点間を公共交通で結ぶ「コンパクト+ネットワーク型都市」の実現に向けて、**立地適正化計画**を策定します。

■計画について

立地適正化計画では、都市全体を見渡しながらかつ居住や都市機能を誘導する区域を設定するとともに、これらを誘導するための施策や都市の防災に関する指針等を定め、概ね20年後の都市の姿を示していきます。

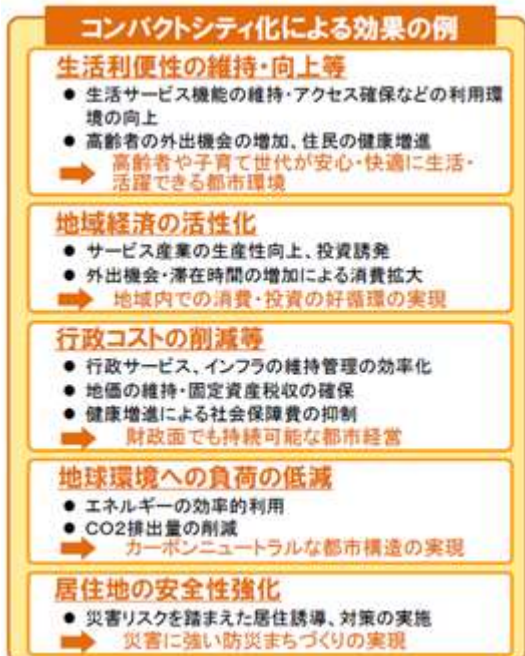
■策定スケジュール

令和5年度～令和7年度(3か年度)



②計画作成の必要性

人口減少に対応したまちづくり
⇒コンパクトシティ化が必要



水災害リスクを考慮したまちづくり・住まい方の工夫

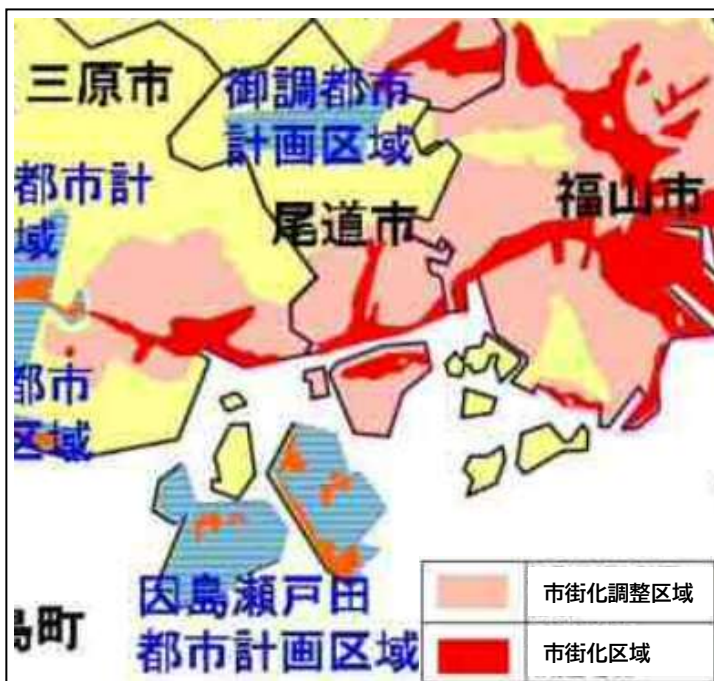
浸水ハザードエリア等における開発許可の厳格化

 尾道市

- 50戸連たんによる開発許可に係る条例区域から浸水ハザードエリアを除外。

市街化調整区域内の50戸連たんによる自己用住宅の開発許可の対象となる条例区域から浸水ハザードエリアを除外。
【令和4年度～】

浸水リスクの高いエリアでの住宅の立地を抑制し、被害対象となる住宅の減少を図る。



ハザードマップの作成・周知

洪水・内水ハザードマップの作成



- 中小河川浸水想定区域を掲載したWEB版のハザードマップを作成し、紹介の動画と併せてHP上で周知(令和6年度に公表)
- 平成30年7月豪雨時における罹災証明書の発行履歴をもとに、尾道市公共下水道全体計画区域における浸水実績図を作成し、HP上で周知(令和3年度に公表)。

■効果

災害時における市民の円滑な避難行動や浸水防止対策等が期待される。



©ZENRIN



▲WEB版ハザードマップと説明動画



▲尾道市公共下水道区域内浸水実績図

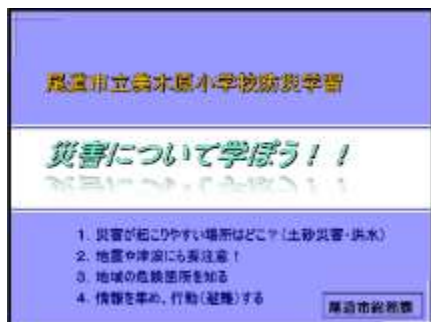
ハザードマップの作成・周知

出前講座等を活用した防災教育

 尾道市

- 自治組織や自主防災会、学校等を対象とする**出前講座(授業)**を実施し、ハザードマップの周知や地域住民による「うちの防災マップ」の作成支援、マイタイムラインによる避難等、防災知識全般の普及啓発を図る。

出前授業で使用した資料の一部



防災出前講座の様子



■出前講座(授業)を活用した防災知識の普及啓発活動の具体的な事例

- ・ ハザードマップの情報について説明するとともに地域住民による「うちの防災マップ」の作成を支援し、地域の危険箇所や避難場所、安全な避難経路等についての理解を深める取り組み
- ・ マイタイムラインについての理解を深め、作成を支援することで個人レベルの避難行動を判断するタイミングについて意識付けを図る取り組み
- ・ 防災関連情報や自助・共助の必要性など、必要不可欠な情報を的確に提供することで防災意識の醸成や地域防災力の強化を図る取り組み

これら出前講座(授業)のほか、地域防災のリーダー的な役割を担う人材育成を目的として各地域から推薦された市民を対象として「防災リーダー育成講座」を継続実施している。



マイタイムライン作成中の様子



■開催実績等

出前講座 開催回数及び参加者

令和3年度	21回	727人
令和4年度	43回	1,405人
令和5年度	44回	1,938人
令和6年度	38回	1,162人
令和7年度※	19回	859人

※12月末現在

防災リーダー育成事業 開催回数及び認定者数

令和3年度	コロナ禍のため中止	
令和4年度	3回	78人
令和5年度	1回	19人
令和6年度	1回	16人
令和7年度	1回	12人

マイ・タイムラインの作成及び活用の促進

- ひろしまマイ・タイムラインを活用した防災意識の醸成を図るために、防災訓練等においてマイ・タイムライン作成の重要性を説明。

■実施内容

尾道市総合防災訓練で、マイ・タイムラインや地域防災タイムラインの重要性を説明するとともに、作成方法等を紹介した。また、自主防災組織に対し、地域防災タイムラインの取組の促進を行った。

■実施事例

尾道市総合防災訓練

○開催日:

令和7年11月16日(日)

○場 所:浦崎小学校

○参加者数:約350名



【防災訓練の様子(タイムラインの説明)】

■効果

- 災害リスクの確認・認識。
- 災害を自分ごととして認識
- 作ったマイ・タイムラインを自分への約束として認識



【ひろしまマイ・タイムライン】



【地域防災タイムライン】

高齢者等避難の実効性の確保

要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び活用の促進



- 水害時の要配慮者利用施設への円滑な避難体制を確立させるため、**避難確保計画の作成を支援**している。

■実施内容

- 土砂災害警戒区域、河川洪水浸水区域、津波浸水想定区域に所在する要配慮者利用施設に対する避難確保計画の作成を支援
- 作成した避難確保計画に基づく避難訓練を支援

要配慮者利用施設の防災対策

ページID: 0045538 更新日: 2022年11月21日更新 [印刷ページ表示](#)

避難確保計画の作成

近年、集中豪雨の増加に伴い、全国各地で豪雨災害が頻発しており、特に社会福祉施設、学校、医療施設などの防災上の配慮を要する方が利用する施設（以下、「要配慮者利用施設」という。）において被災が目立っています。

要配慮者利用施設では、一般の住民より避難に多くの時間を要し、また、災害が発生した場合には、深刻な被害が発生するおそれがあります。

このため、災害の危険性のある区域内に所在し、尾道市地域防災計画に定められた要配慮者利用施設の所有者または管理者に対し、避難確保計画の作成・提出と避難訓練の実施・報告が義務化されています。

避難確保計画の作成が必要な施設

○施設一覧

[【洪水浸水・土砂災害・津波浸水】警戒区域内要配慮者利用施設【PDFファイル/847KB】](#)

社会福祉施設の避難確保計画（非常災害対策計画を含む）

チェックリスト

施設 チェック担当者	市町村 チェック担当者

施設名	
市町村名	

施設が有する災害リスク等の確認		施設 チェック欄	市町村 チェック欄
災害リスクの確認	洪水浸水想定区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
	雨水出水浸水想定区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
	高潮浸水想定区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
	津波浸水想定区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
	津波災害警戒区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
	土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域内に位置するか	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する。 <input type="checkbox"/> 位置していない
市町村地域防災計画に当該施設が定められているか		<input type="checkbox"/> 定められている。 <input type="checkbox"/> 定められていない	<input type="checkbox"/> 定めている。 <input type="checkbox"/> 定めていない

高齢者等避難の実効性の確保

避難行動要支援者への支援

 尾道市

- **防災ラジオを貸与し、防災情報の伝達**を行っている。

■実施内容

- 防災ラジオを尾道市に住民票がある世帯に1台無償貸与しており、インターネットやSNS媒体で情報を得ることが難しい世帯へ防災情報や避難情報を伝達している。
- 聴覚障害者手帳を所持する方がいる世帯へは文字表示付き防災ラジオを貸与している。

■利用状況

【令和3年6月運用開始】

- 令和3年8月： 22,712世帯/ 64,242世帯
- 令和4年12月： 24,634世帯/ 64,022世帯
- 令和5年12月： 25,051世帯/ 64,315世帯
- 令和6年12月： 25,346世帯/ 64,228世帯
- 令和7年12月： 25,373世帯/ 64,023世帯



情報伝達手段の多重化促進

● 280MHzデジタル防災無線

280MHzデジタル防災無線を整備するとともに、希望する全世帯に防災ラジオを無償貸与し、市民に防災情報を迅速かつ確実に伝達する体制を構築

● 防災アプリ

防災ラジオの放送を受信する防災アプリを導入し、GPS機能により周辺の災害危険箇所や避難所への避難ルートを表示。令和5年8月より、5か国語での多言語配信対応(緊急情報のみ)。

● 情報の一括配信

防災ラジオの配信に連携し、防災アプリ、LINE、メール、Twitter、緊急速報メールへ一括配信するシステムを構築



 **5カ国語**
緊急情報のみ

- English
- 简体中文
- Tagalog
- TiếngViệt
- bahasa Indonesia



関係機関との各種連携

- 災害から住民を守るために関係機関が連携して**災害時ホットラインやリエゾン等を実施**

■実施内容

- 災害時に市、県、気象台でオンラインにより状況を共有するとともに、必要に応じて気象状況を踏まえた災害対応に関する検討を行い、住民に適切な避難行動を促す。
- 市長が広島地方気象台長及び東部建設事務所三原支所長と構築している災害時ホットラインにより、警戒を必要とする気象情報や河川の水位情報等に関する助言を受け、迅速・的確な災害対応を実施する。
- 災害発生時には、福山河川国道事務所から派遣されるリエゾンと調整を行い、TEC－FORCEの支援による被災箇所の早期復旧を行う。



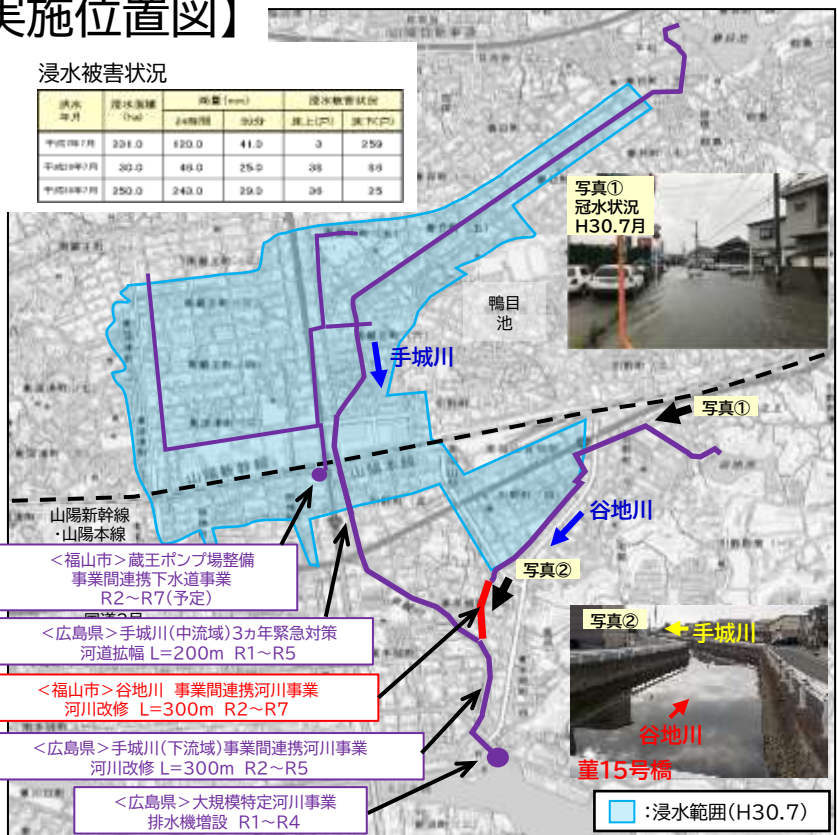
準用河川の改修

- 谷地川流域周辺は、近年、市街化が進み3年から5年に一回という浸水被害を繰り返している。
- 手城川流域では平成30年7月豪雨で床上浸水36戸、床下浸水25戸の浸水被害が発生したことから、広島県河川事業である「手城川改修及び手城川排水機場ポンプ増設」と合わせ、浸水被害の軽減を図ることを目的に**谷地川の河川改修を実施**し、河積の拡大より近年の実績最大の降雨から床上浸水を解消する。

【実施位置図】

浸水被害状況

洪水年月	最大水深 (m)	雨量 (mm)		浸水被害状況	
		24時間	50分	床上(戸)	床下(戸)
平成27年7月	30.0	120.0	41.0	3	259
平成29年7月	30.0	49.0	25.0	38	93
平成30年7月	25.0	240.0	39.0	36	25



【実施内容】

- ・河川改修 L=380m
- ・土工(掘削) V=10,000m³
※河床掘下げに伴う数量
- ・護岸工 L=760m
※右左岸延べ数量
- ・地盤改良工 L=380m
- ・構造物復旧工(橋梁) N=3橋

【実施期間】

・2020年度(令和2年度)~2025年度(令和7年度)

標準横断面図



普通河川の改修

- 洪水流量を安全に流下させることを目的に河川改修工事を実施予定。

■実施箇所(山手川)

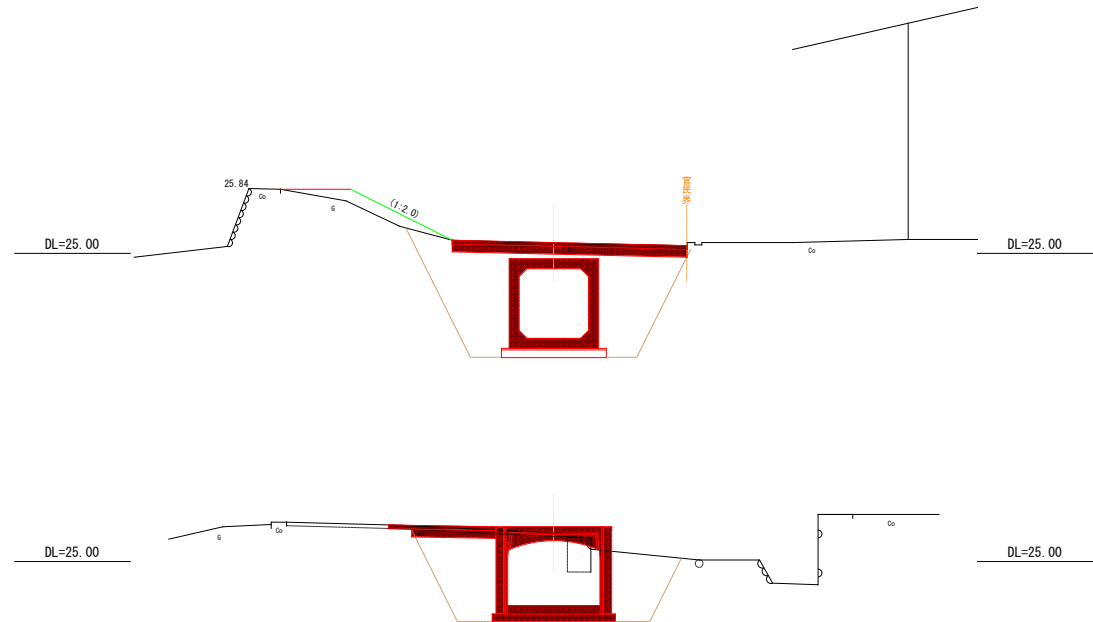
河川改修: 堰堤下水路
 ~ 本郷川合流点(L=0.2km)



位置図

■効果

河川改修: 大型自由勾配側溝とボックスカルバートの施工により、安全に流下できるような河道断面を確保する。



横断面図

普通河川の改修

- 洪水流量を安全に流下させることを目的に河川改修工事を実施。

■実施箇所(土井川)

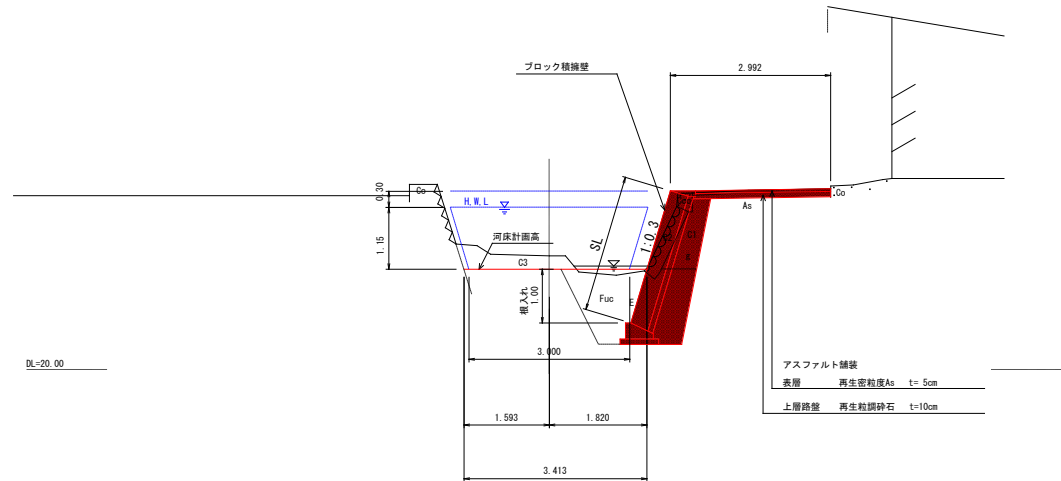
河川改修: 県道府中松永線ボックスカルバート下流
～土井橋上流(L=0.1km)

■効果

河川改修: 護岸改修と河道掘削により安全に流下できるように河道断面を確保する。



位置図



横断面図

普通河川の改修

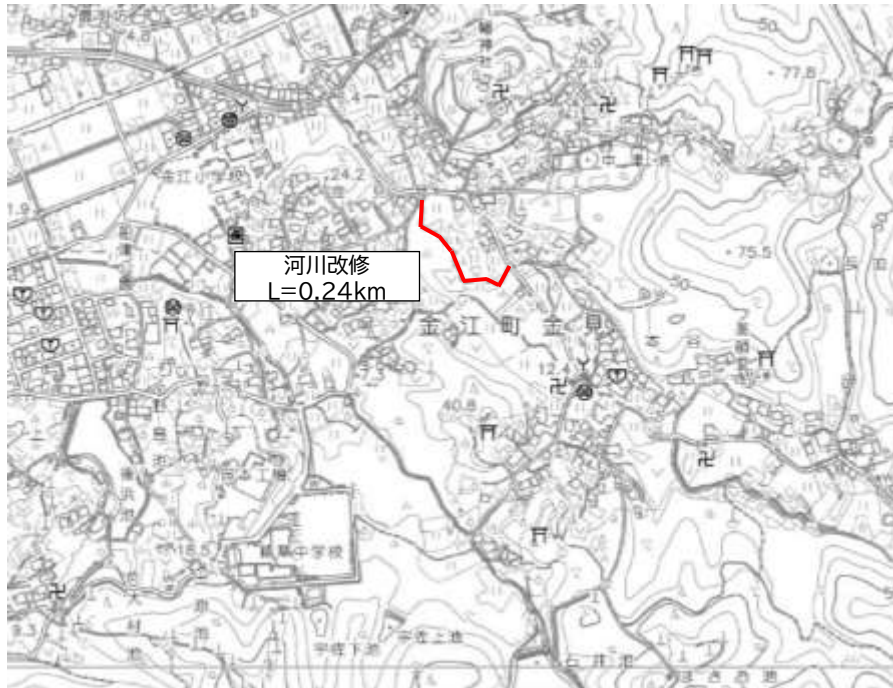
- 洪水流量を安全に流下させることを目的に河川改修工事を実施。

■実施箇所(本谷川)

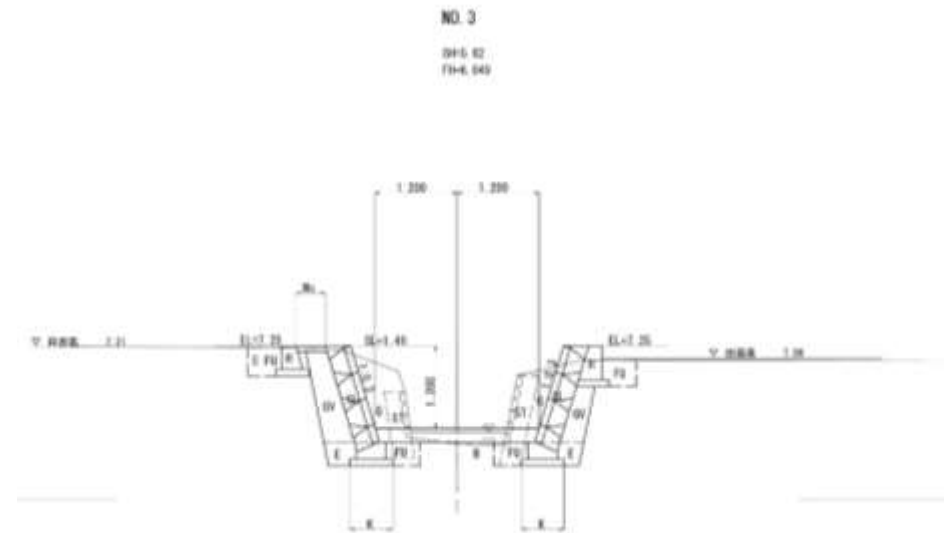
河川改修:中津橋
～正面橋(L=0.24km)

■効果

河川改修:護岸改修と河道掘削により安全に流下できるように河道断面を確保する。



位置図



横断面図

普通河川の浚渫

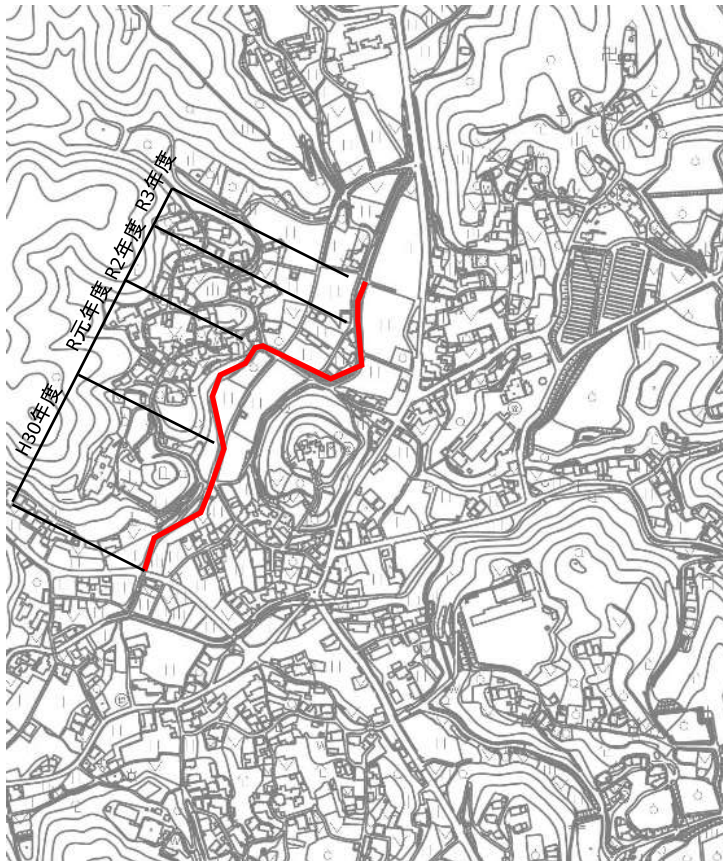
- 菅田川の堆積土砂を撤去し, 流下能力の向上を図る。

■実施期間

平成30年度～令和3年度

■堆積土量

840m³



着工前



完成



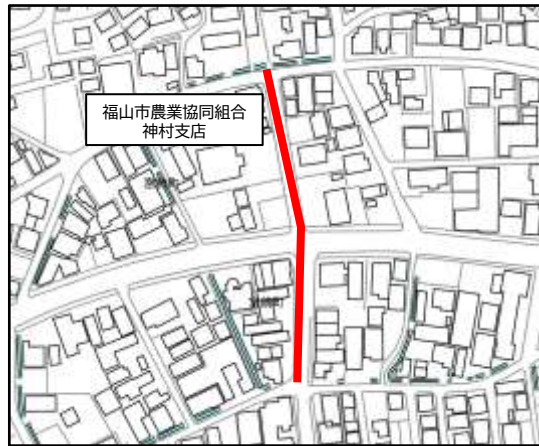
雨水排水施設の整備

- 宮前町二丁目で発生している浸水被害を軽減するため、整備済み雨水幹線へ直接排水するバイパス水路を整備した。

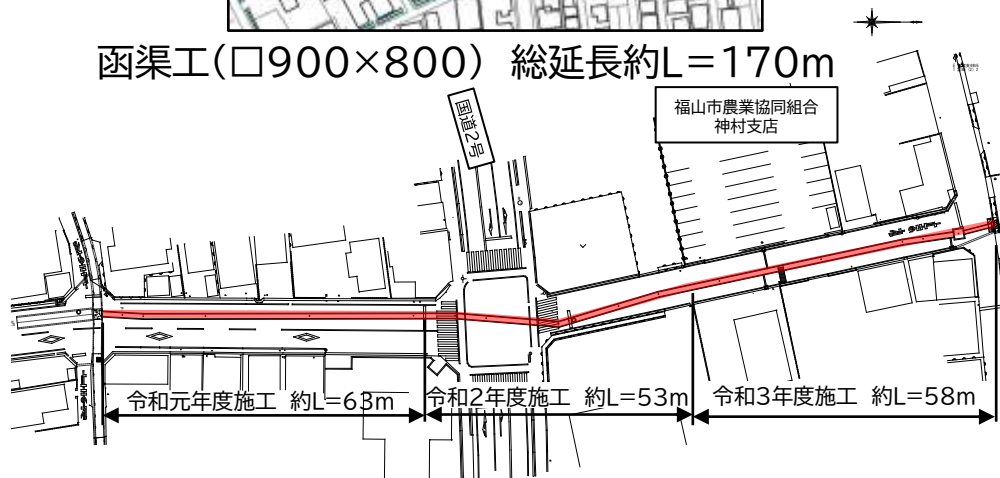
■実施期間

令和元年度～令和3年度

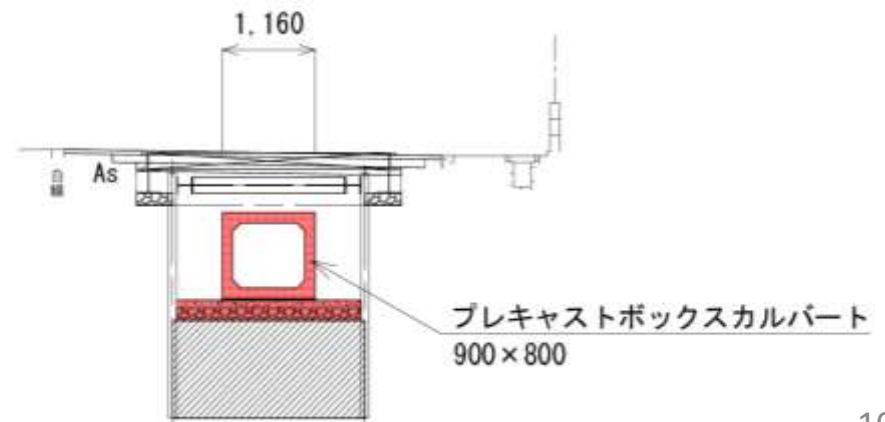
位置図



函渠工(□900×800) 総延長約L=170m



施工状況



雨水排水施設の整備



- 羽原川の既設入江ポンプ場周辺地域は、平成28年6月洪水及び平成30年7月豪雨により浸水被害が発生した。
- 浸水被害の軽減を図ることを目的に、**入江ポンプ場の排水能力を向上**させる。

■実施期間

令和元年度～令和4年度

位置図



■実施内容

1m³/s⇒2m³/sに増加
排水ポンプ φ400×3基増設

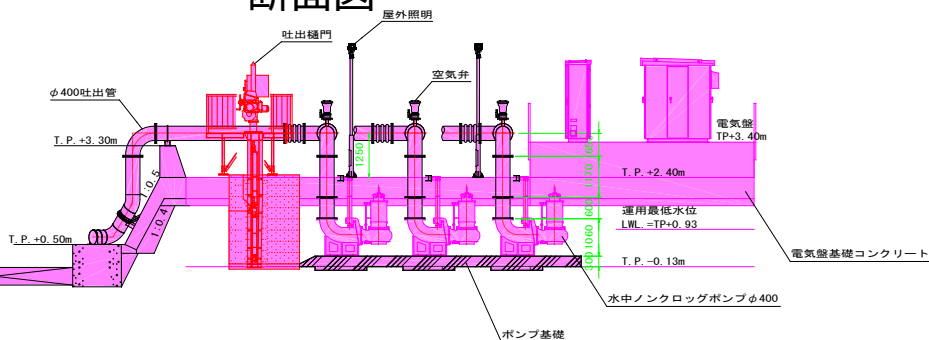
施工前



施工後



断面図



雨水排水施設の整備

- 平成30年7月豪雨と同規模の降雨に対して、手城川流域における床上浸水被害の解消を図るため、河川事業と連携して新たに**蔵王雨水幹線と蔵王ポンプ場を整備する。**

■実施期間

雨水幹線：令和元年度～令和7年度

雨水ポンプ場：令和元年度～令和9年度



施工前



施工状況



雨水排水施設の整備



- 林崎・黒迫地区の浸水被害を軽減するため、排水機場を新設し排水能力向上を図る。

■実施期間

令和2年度～令和5年度

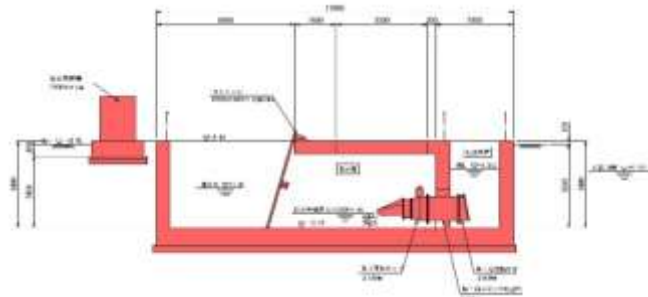
■実施内容

排水ポンプ φ700×2基 1.5m³/s新設

位置図



断面図



施工前



施工後



雨水排水施設の長寿命化

- 才戸川流域の松尾排水機場周辺は、平成30年7月豪雨により、浸水被害が多数発生した。
- 浸水被害の軽減を図るため、**松尾排水機場の遊水地の堆積土砂を掘浚(V=527m³)し、水中ポンプをオーバーホールし、本施設の長寿命化を図る。**

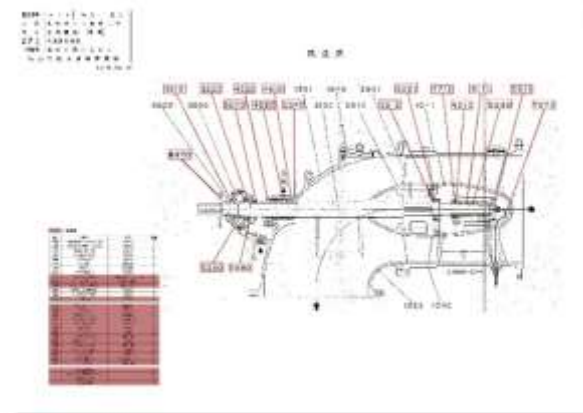
位置図



施工前(掘浚)



水中ポンプ構造図



施工後(掘浚)



(2019年度完了)



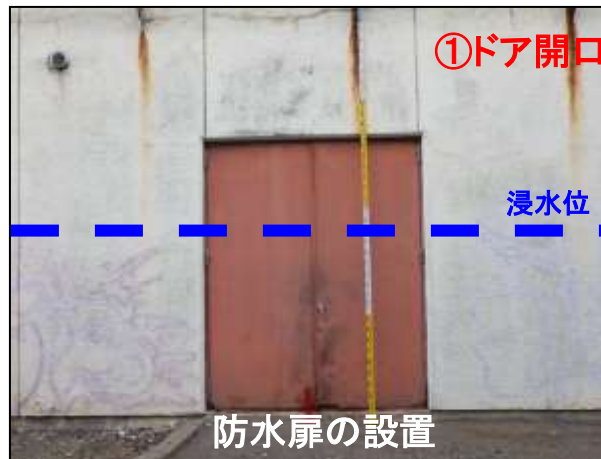
施工後(オーバーホール)

(2020年度完了)



雨水排水施設の耐震化・耐水化

- 津波により想定される浸水深に対し、千年ポンプ場の揚水機能を確保するため、防水扉の設置、燃料移送ポンプ盤のかさ上げ等の耐水化を図る。



雨水貯留機能の向上

雨水貯留施設の整備

- 松永町二丁目で発生している浸水被害を軽減するため、松永中学校のグラウンドの地下に雨水を一時的に貯留する施設を整備した。

■実施期間

令和元年度～令和3年度

位置図



断面図・容量

有効貯留量 約920 m^3
縦約21m×横約18m×高さ約3.5m



施工前



施工状況



施工後

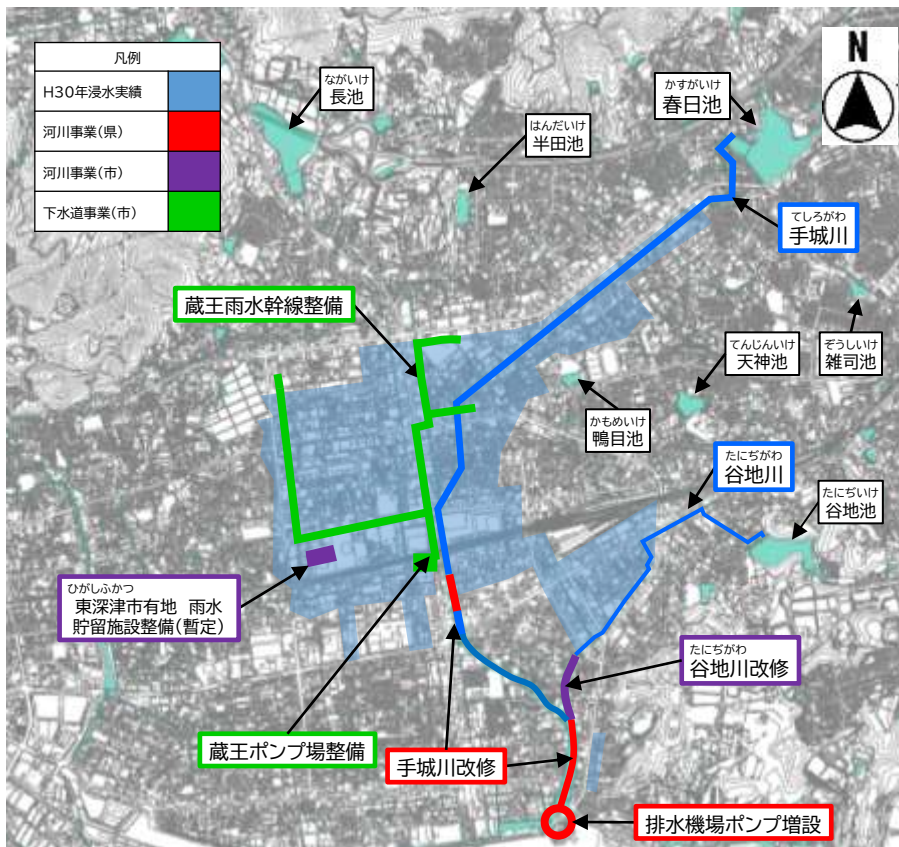


雨水貯留機能の向上

雨水貯留施設の浚渫

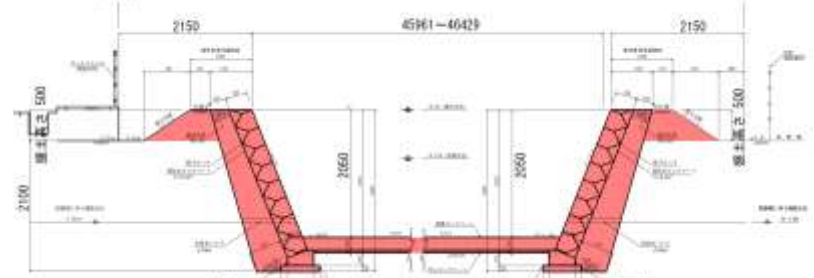
- 流域の一部地盤が低い地域において、道路冠水が度々発生していることから、河川事業と下水道事業の連携により、「治水対策」を実施しています。
- 「流域治水対策」として実施している河川事業と下水道事業が完成するまでの暫定的な対策として市が所有する土地を活用し、雨水貯留のための施設を整備、管理するものです。

【実施箇所図】



【実施内容】

最大貯留容量 約8,000m³



(施工前)



(施工後)



【実施期間】

2018年度(平成30年度)～2026年度(令和8年度)

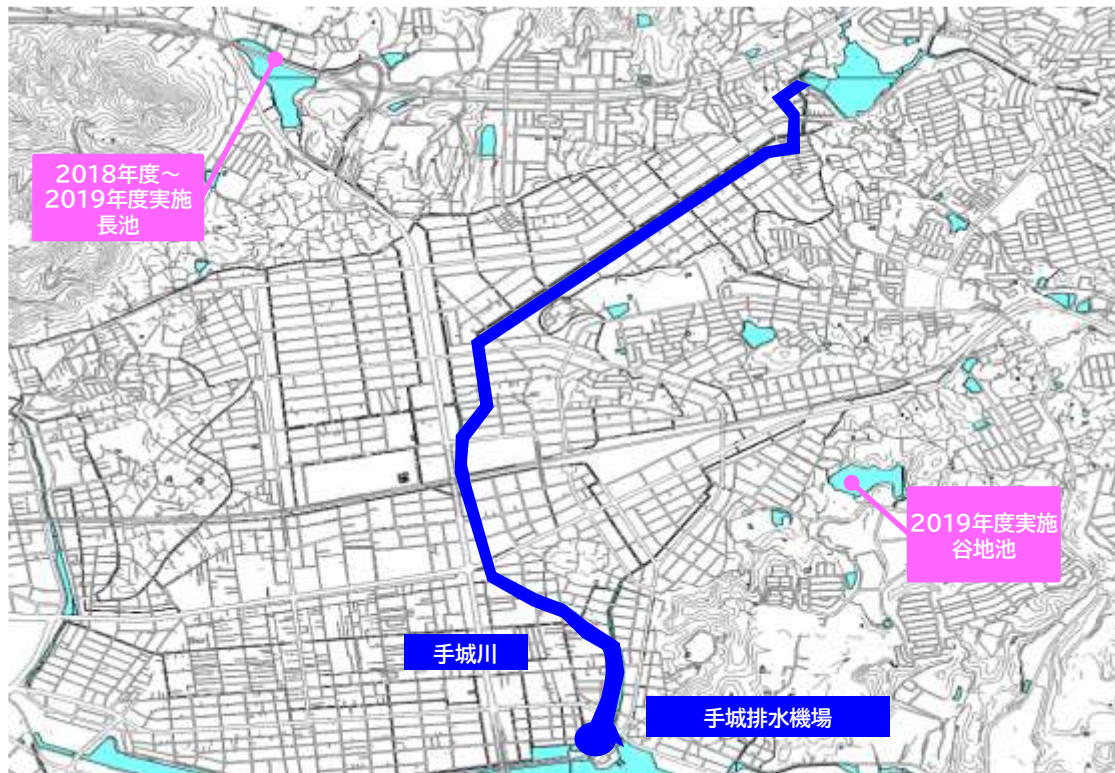
※現時点見込み期間

雨水貯留機能の向上

雨水貯留施設の浚渫

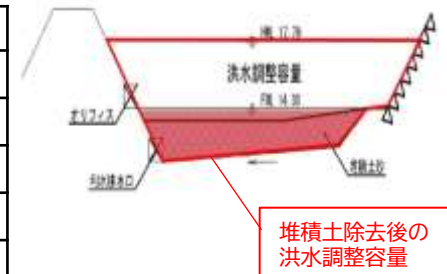
- 流域にある長池、谷地池につきましては、かなり以前ですが、手城川流域の浸水対策として既存のため池を雨水貯留施設として整備しています。
- これらの施設に長年の土砂がたまっていることから、適正な維持管理のため、2年前の2017年度から掘浚、つまり**土砂撤去を実施**し、貯留できる量の確保を図るものです。

【実施箇所図】



【実施数量】

施設名	除去量(m3)	
	2018年度	2019年度
長池	270	1,100
谷地池		2,100
計	270	3,200
		3,470



(施工前)



(施工後)



【実施期間】

2018年度(平成30年度)
～2019年度(令和元年度)

雨水貯留機能の向上

農業ため池の改良

- 山南川に雨水の流入を減少させるため、農業用ため池を活用した雨水貯留施設への改修を行う。

■実施期間

令和4年度～令和5年度



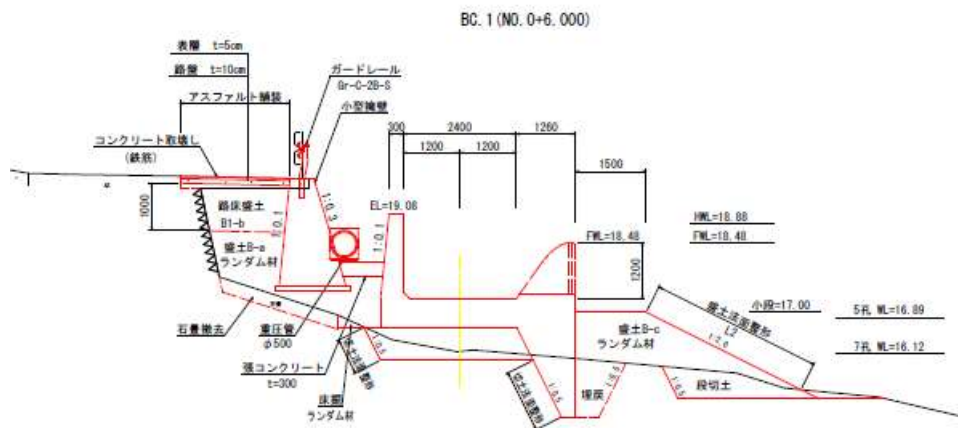
■洪水調整容量

28680m³

着工前



完成

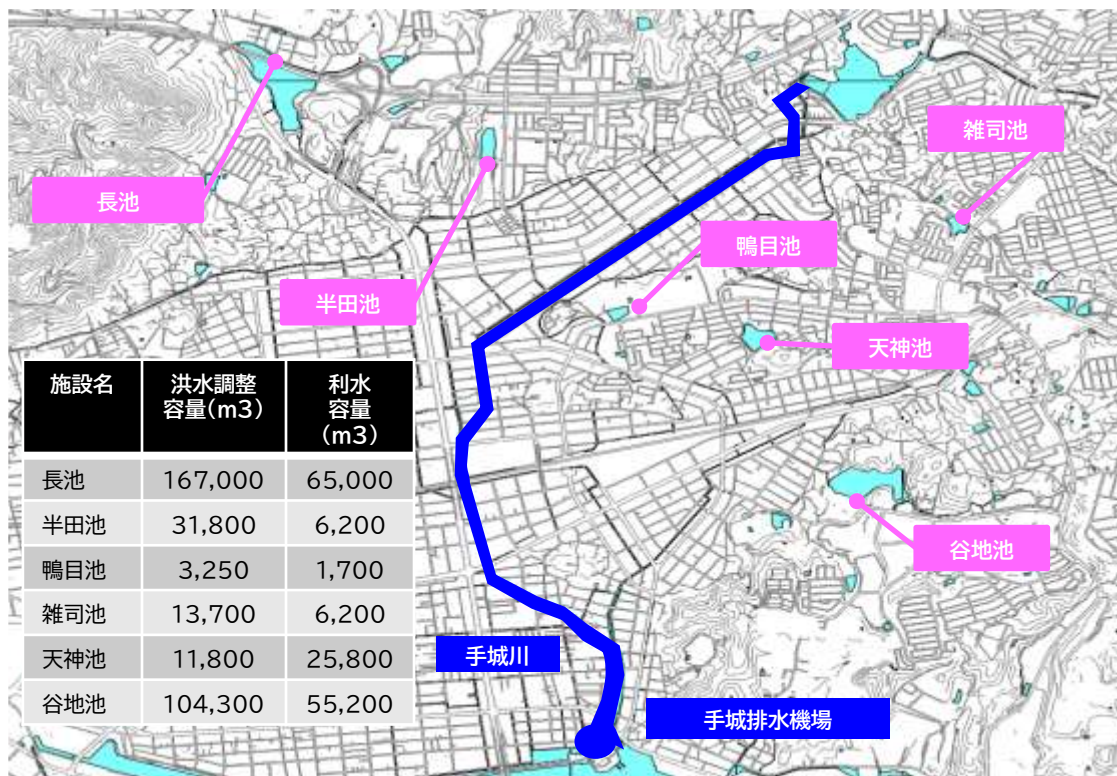


雨水貯留機能の向上

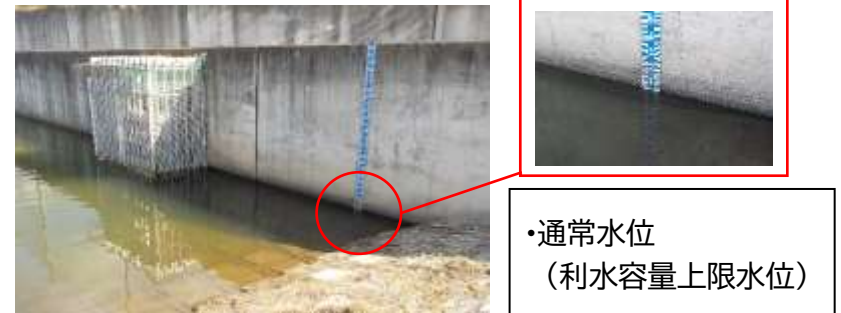
貯留施設の低水位管理等

- 流域にある長池、半田池、雑司池、鴨目池、天神池、谷地池につきましては、かなり以前ですが、手城川流域の浸水対策として既存のため池を雨水貯留施設として整備しています。
- これらの施設において、**低水管理により、ため池機能部分である利水容量を減らす**ことで、降雨時の貯水容量の増加を図るものです。

【実施箇所図】



(低水管理前)



(低水管理後)



【実施期間】

2018年度(平成30年度) ~

雨水排水施設の整備

- 松永地区の浸水被害を軽減するため、排水ポンプを更新し排水能力向上を図る。

■実施期間

令和8年度～令和10年度

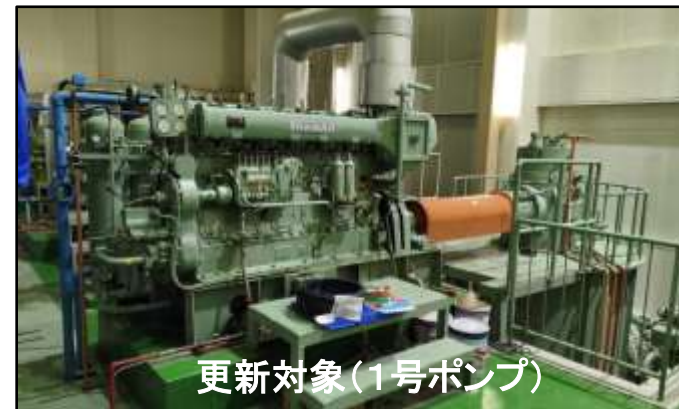
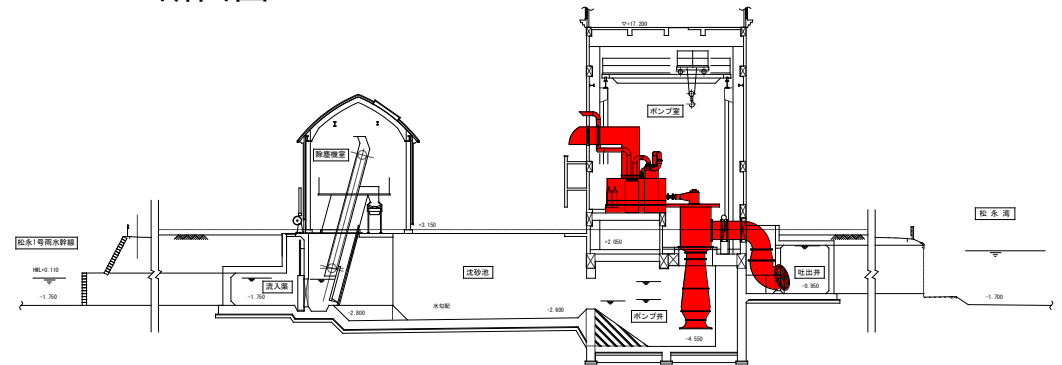
■実施内容

排水ポンプ更新 $\phi 1200 \times 1$ 基 約 $1.0\text{m}^3/\text{s}$ 増強

位置図

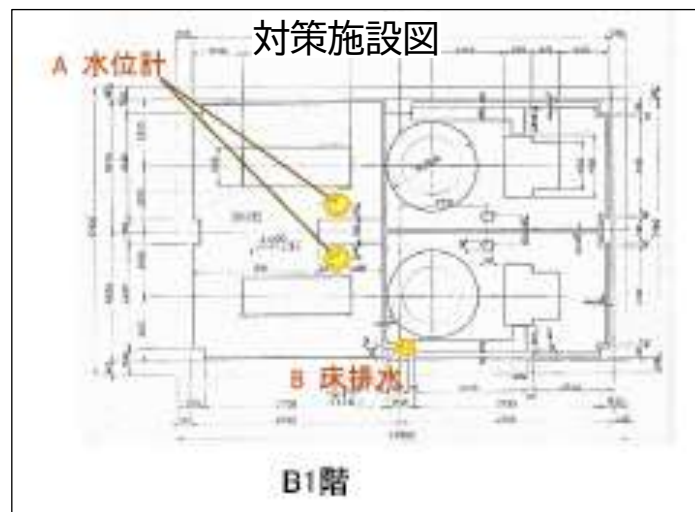


断面図



雨水排水施設の耐震化・耐水化

- 津波により想定される浸水深に対し、柳津ポンプ場の揚水機能を確保するため、地下階との貫通部の閉塞を行い耐水化を図る。



立地適正化計画の改定・運用

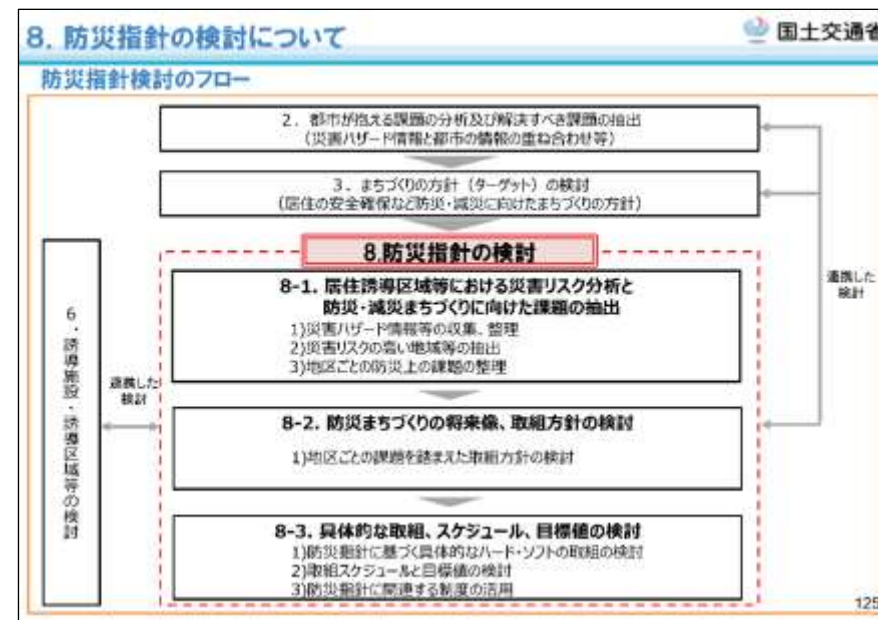
- 居住や都市機能がまとまって立地し、公共交通によりアクセスできる多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けて取り組んでいくため、**福山市立地適正化計画(2020年(令和2年))を策定。**
- 災害リスクを踏まえて居住や都市機能を誘導する地域の設定を行い、区域内に残存する浸水想定区域等の災害ハザードに対する**適切な防災・減災対策を『防災指針』として位置付ける。**

■防災指針の概要

- 居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針で、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めるもの。

■今後のスケジュール

- 防災指針検討、法定手続き
(～2027年度(令和9年度))
- 防災指針策定(立地適正化計画改定)
(2027年度(令和9年度))



止水板の設置補助



- 大雨による浸水被害を軽減するため、建築物内部へ水が浸入することを防ぐ**止水板の設置費用の一部を補助。**

【止水板の効果】普段は人や車両等が通行できる脱着式で、浸水予想時に土のう等に比べ短時間で設置可能であり、設置工事後から効果が発現します。

また、人力で取外しが容易にでき、繰り返し使用できる特徴もあります。

【対象区域】市内全域

【補助対象】止水板の設置等
(止水板の購入及び設置工事)

【補助金額】止水板の設置等に必要経費の
合計額の2分の1
(限度額50万円)

【実績】2019年度(令和元年度)8件

2020年度(令和2年度)5件

2021年度(令和3年度)6件

2022年度(令和4年度)7件

2023年度(令和5年度)2件

2024年度(令和6年度)2件

【実施期間】2019年度(令和元年度)

～2028年度(令和10年度)



【止水板の設置例】

ハザードマップの作成・周知

洪水ハザードマップの作成・周知



- 広島県が新たに県管理中小河川における浸水想定区域を指定したこと、土砂災害ハザードマップを作成しておよそ10年が経過することから、新たに**水害ハザードマップ(洪水・土砂災害)**を作成しました。ハザードマップにより自宅付近の危険箇所、必要な避難行動や緊急避難場所、避難経路、非常時持ち出し品などを確認することができます。

■対象地域

福山市全域(15地区に分割)

■規格等

- ・表面:情報・学習編(共通)
- ・裏面:地図面(15地区)
- ・A1サイズ
- ・215,000部
- ・日本語版、英語版

■配布開始

2023年(令和5年)3月配布

■周知方法

- ・自治会経由等で各戸配布
- ・各支所・交流館にも設置
- ・市ホームページ(説明動画あり)

■活用事例

- ・防災教育(対象:市内小・中学校等)
- 2023年度:39校 2024年度:30校
2025年度:34校(2026年1月末時点)

↓水害(洪水・土砂災害)ハザードマップ情報面



水害(洪水・土砂災害)ハザードマップ
地図面(図郭1(常金丸・網引地区))



↑説明動画(市HP)

↓防災教育授業風景



内水ハザードマップの作成・周知



- 内水による浸水に関する情報及び避難に関する情報を住民にわかりやすく提供することにより、内水による浸水被害を最小化することを目的として作成する。

■対象区域

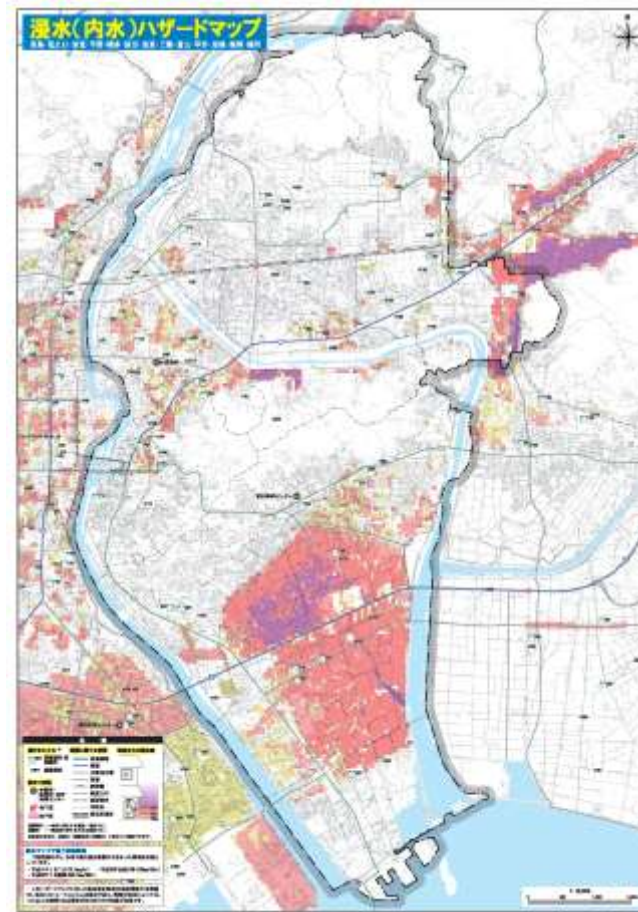
市街化区域内で想定最大規模降雨等により浸水の発生が想定される区域

■効果

- 住民を円滑に避難・誘導するための機能
- 内水による浸水に関する情報の共有ツールとしての機能
- 住民の自助及び共助を促す機能など

■実施期間

2022年度(令和4年度)～2025年度(令和7年度)



出典 岡山市浸水(内水)ハザードマップ

ハザードマップの作成・周知

マイ・タイムラインの作成及び活用の促進



- 住民一人ひとりが、家族構成や地域の危険な状況などに応じて、避難情報などが発令された場合の行動を整理しておかなければいけません。各自に必要な行動をあらかじめ決めておくことで、いざという時に、落ち着いて自分の身を守る行動ができるように備えてもらうため、**防災教育を実施。**

■活用方法

福山防災リーダーによる防災講座や地域でのワークショップ、福山市危機管理防災課の職員による防災教育(小・中学生対象)などで活用。



■効果

マイ・タイムラインを作成し、家庭に持ち帰り、話し合うことで、地域の防災力向上を図る。

警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
注意喚起	避難準備	避難指示	緊急事態
避難の準備	避難の準備	避難の準備	避難の準備
避難の準備	避難の準備	避難の準備	避難の準備

↑水害ハザードマップ表紙に掲載

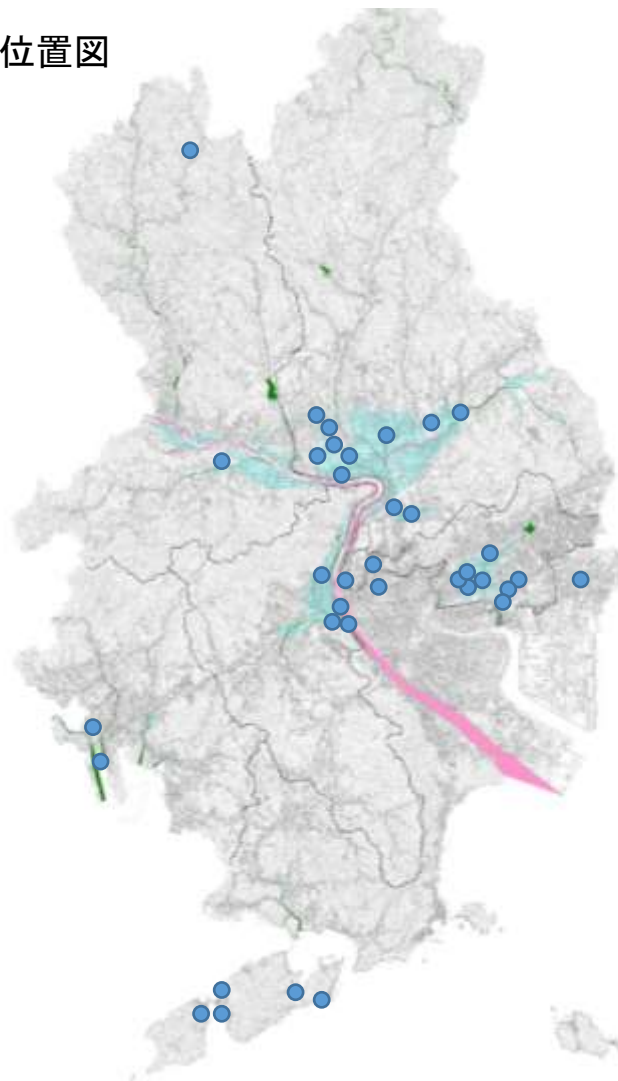
←福山市HPにて周知

水位計、河川監視カメラの設置



- 河川や水路等に水位計及び監視カメラを設置し、水位を遠隔監視による警戒パトロールの実施、大雨時の水防活動を迅速に対応するためシステム整備・運用

位置図



道路冠水への対応



道路アンダーパス



雨水貯留施設



排水施設関係



監視目的	箇所数	監視目的	箇所数
道路冠水への対応	19箇所	雨水貯留施設	2箇所
道路アンダーパス	4箇所	排水施設関係	11箇所

計 36箇所

要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び活用の促進



- 災害の危険性のある区域内に所在し、円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるものとして、福山市地域防災計画に定められた要配慮者利用施設の所有者または管理者は、避難確保計画の作成・報告及び訓練の実施・報告が義務化されています。また、避難確保計画に基づき、年1回以上、避難訓練等を実施することとしています。
これに伴い、本市では、**施設の種別ごとに各担当課から呼びかけ**を行っています。

■対象施設

- (1)洪水浸水想定区域内
- (2)土砂災害警戒区域内
- (3)津波災害警戒区域内

にある施設で福山市地域防災計画に定められた施設

■対象施設数

1,333施設

- (内訳)社会福祉施設 1,163施設(策定率94.9%)
- 医療施設 63施設(策定率96.8%)
- 学校関係施設 107施設(策定率99.1%)



水防訓練の実施



- 梅雨や台風時期に備えて、大雨による災害から市民の生命、身体を守るための迅速かつ的確な災害対応が実施できるよう、**マニュアルで定めた各班の役割や関係部署との連携方法を確認**するとともに、本市と関係機関との連携体制を確認することを目的として実施。

■日時

2025年(令和7年)5月30日(金)

■対象

市職員、関係機関など 約130人

■内容

- (1) 災害対策本部運営(状況付与型ブラインド訓練)
- (2) 関係機関との情報連携
- (3) 被害状況集約、被害報作成
- (4) 避難情報発令の情報伝達
- (5) 災害時コールセンターの運用(市民からの通報対応)
- (6) 外部有識者による客観的な訓練評価

国立研究開発法人 防災科学技術研究所 災害過程研究部門 宇田川真之 様

■新たな取組

- タブレット端末を活用した被害報告、避難所状況の報告
- 本部運営を各支部へ映像配信
- 新しい広島県防災情報システムによる情報共有・報告



土砂流出対策

砂防堰堤等の整備



広島西部山系砂防事務所

- 土石流による人的被害、家屋被害、重要な交通網の途絶などの被害を軽減するために、砂防堰堤や溪流保全工等の**砂防施設の整備**を行っています。

事業実施箇所

市区		箇所
広島市	広島市佐伯区	五月が丘
		美鈴が丘
		倉重
	広島市安芸区	上瀬野※1
		中野東※1・2
廿日市市	宮内明石	
	原	
	坂町	
坂町	坂※1	

※1:平成30年7月豪雨災害対応箇所
 ※2:令和7年度砂防施設整備完了



美鈴が丘1号砂防堰堤(広島市佐伯区)



倉重2号砂防堰堤(広島市佐伯区)


 山王川砂防堰堤
 (広島市安芸区中野東地区)

 総頭川遊砂地
 (安芸郡坂町坂地区)

出前講座等を活用した防災教育



- 令和7年度においては、管内の小中学校や商業施設等にて、土石流模型実験装置や3D土石流体実験装置を使用した**防災に関する出前講座**を実施。

佐伯区総合防災訓練



安芸区防災訓練・防災フェア



美鈴が丘地区防災訓練



■出前講座実績

	実施日	イベント名	開催場所
	5月 1日(木)	防災教育・現地見学(井口台小学校)	井口台1号・4号砂防堰堤
	5月 8日(木)	防災教育・現地見学(城山北中学校)	阿武の里1号・2号砂防堰堤
	5月31日(土)	安佐南防災フェス2025	イオンモール広島祇園
	6月29日(日)	安西学区防災訓練	安西小学校
	7月13日(日)	可部学区防災訓練	可部小学校
	7月26日(土)	防災ひろば2025	マツダスタジアム
八幡川水系	8月24日(日)	佐伯区総合防災訓練	五日市高等学校
	9月17日(木)	防災教育(可部小学校)	可部小学校
	9月20日(土)	たられば防祭	LECT・アルパーク
総頭川水系	10月26日(日)	坂町総合防災訓練	ロジコムグラウンド
	10月26日(日)	現地見学(第二高取町内会)	小原山砂防堰堤
瀬野川水系	11月 2日(日)	安芸区防災訓練・防災フェア	阿戸小中一貫校
	11月 5日(水)	防災教育・現地見学(緑井小学校)	鳥越川1号砂防堰堤
	11月 6日(木)	防災教育・現地見学(安佐北小学校)	長楽寺砂防堰堤
瀬野川水系	11月 9日(日)	安芸区民まつり	中国技術事務所
	11月16日(日)	広域公園ふれあいDAY	ホットスタッフフィールド広島
岡ノ下川水系	11月23日(日)	五月が丘学区防災訓練	五月が丘小学校
	11月28日(水)	防災教育・現地見学(東浄小学校)	戸坂新町南1号2号砂防堰堤
	11月29日(土)	南区安全・安心なまちづくりフェスティバル	産業会館
	11月29日(土)	わくわく ときどき わがまち探検隊	大谷川砂防堰堤
八幡川水系	12月14日(日)	美鈴が丘学区防災訓練	美鈴が丘小学校
岡ノ下川水系	12月19日(金)	現地見学(井口高校)	倉重2号、井口台4号砂防堰堤
矢野川水系	1月18日(日)	矢野南とんど祭り	矢野南ニュータウン中央公園

治山事業



- 山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに水源の涵養、生活環境の保全・形成を図るための**治山施設の整備**。

【黒瀬区域 [R1～R10計画分] 溪間工23基、山腹工36ha】

平成30年7月豪雨で被災した東広島市黒瀬町における災害復旧に向けた取組



H30年7月被災直後



山腹工 施工状況(令和7年4月撮影)



ICT活用 (令和7年度実施)



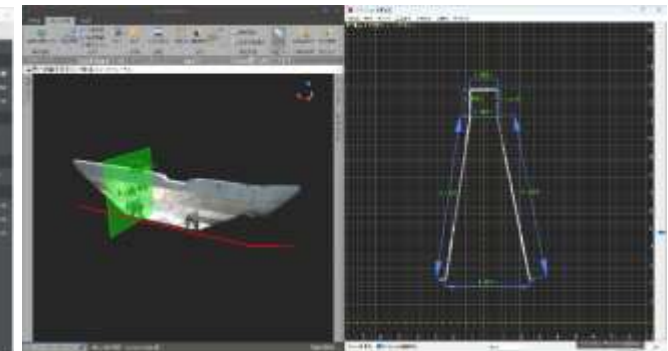
ブラウザ上における3次元データの共有



3次元データを併用した遠隔臨場



3次元出来形管理



山地の保水機能の向上

治山事業


 近畿中国森林管理局
 広島森林管理署

- 山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに水源の涵養、生活環境の保全・形成を図るための**治山施設の整備**。

【高屋区域 [R1～R10計画分] 溪間工34基、山腹工18.9ha、その他12箇所】

平成30年7月豪雨で被災した東広島市高屋町における災害復旧に向けた取組



H30年7月被災直後



上流部(溪間工、山腹工) 施工後の状況(令和7年3月撮影)



全景 施工後の状況(令和6年4月撮影)

溪間工

治山ダム工等の施設の設置により、溪岸・溪床の侵食防止や山脚の固定等を図り、森林の生育基盤を確保します。また、流木を捕捉する治山ダム工の設置も推進しています。

ゆるやかになった流れ

施設

元の急な流れ

土砂が堆積し安定化
溪流を横から見た図！

山腹工

山腹斜面の安定を目的とする土留工等の施設と植生を回復するための植栽工等を前壊等の特性に応じて配置し、森林を再生します。

福岡県田川郡福智町

被災直後の様子
(平成21年7月撮影)

山腹工施工直後の様子
(平成22年10月撮影)

山腹工施工後9年後の様子
(平成30年9月撮影)

山地の保水機能の向上

治山事業



近畿中国森林管理局
広島森林管理署

- 山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに水源の涵養、生活環境の保全・形成を図るための**治山施設の整備**。

【八本松区域 [R1~R10計画分] 溪間工18基、山腹工3.5ha、その他1箇所】

平成30年7月豪雨で被災した東広島市八本松町における災害復旧に向けた取組



H30年7月被災直後



溪間工 施工後の状況(令和6年11月撮影)

溪間工

治山ダム工等の施設の設置により、溪岸・溪床の侵食防止や山脚の固定等を図り、森林の生育基盤を確保します。また、流木を捕捉する治山ダム工の設置も推進しています。

ゆるやかになった流れ

元の急な流れ

施設

土砂が堆積し安定化
溪流を横から見た図！



H30年7月被災直後



山腹工 施工後の状況(令和6年10月撮影)

山腹工

山腹斜面の安定を目的とする土留工等の施設と植生を回復するための植栽等を崩壊等の特性に応じて配置し、森林を再生します。

福岡県田川郡福智町

被災直後の様子
(平成21年7月撮影)

山腹工施工直後の様子
(平成22年10月撮影)

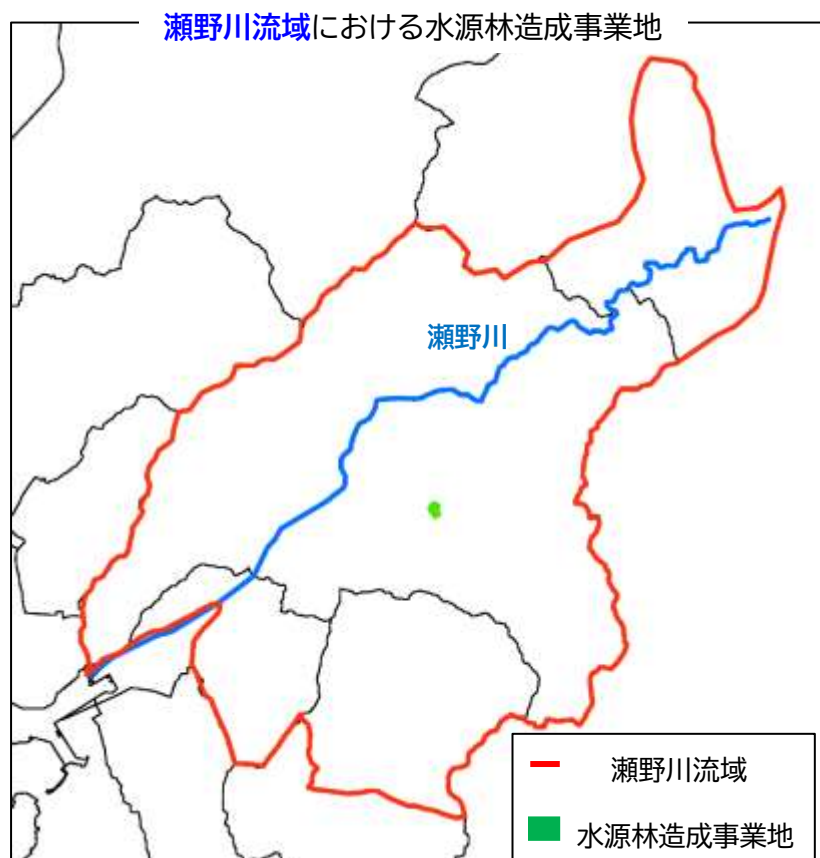
山腹工施工後9年後の様子
(平成30年9月撮影)

森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 瀬野川流域内の水源林造成事業地は、約5ha(1箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

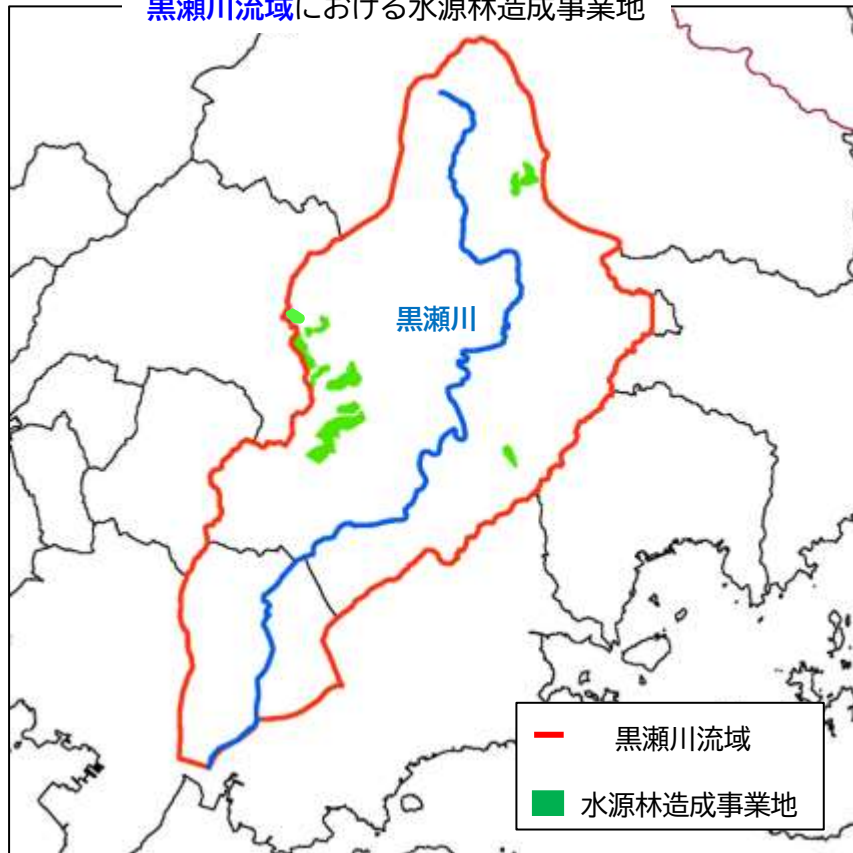
森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 黒瀬川流域内の水源林造成事業地は、約386ha(15箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。

黒瀬川流域における水源林造成事業地



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 沼田川流域内の水源林造成事業地は、約160ha(14箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 三津大川流域内の水源林造成事業地は、約11ha(1箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 藤井川流域内の水源林造成事業地は、約50ha(1箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

森林整備



(国研)森林研究・整備機構
森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 本郷川流域内の水源林造成事業地は、約20ha(2箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

森林整備



(国研)森林研究・整備機構

森林整備センター

- 当センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約を締結した奥地水源地域の民有保安林において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 山南川流域内の水源林造成事業地は、約13ha(1箇所)であり、継続的に**除間伐等の森林整備を実施**。



森林整備実施イメージ



除伐実施状況



間伐実施状況



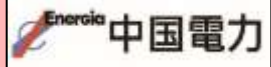
間伐実施前



間伐実施後

【効果】取組実施により樹木の生長や下層植生の繁茂が促され、森林土壌等の保水力の向上や土砂流出量の抑制が期待される

利水ダム等における事前放流の実施・体制構築



- 大雨が予想される場合※¹に、あらかじめ発電取水※²によりダムの水位を下げることで、一時的に洪水を調節するための容量を利水容量から確保。

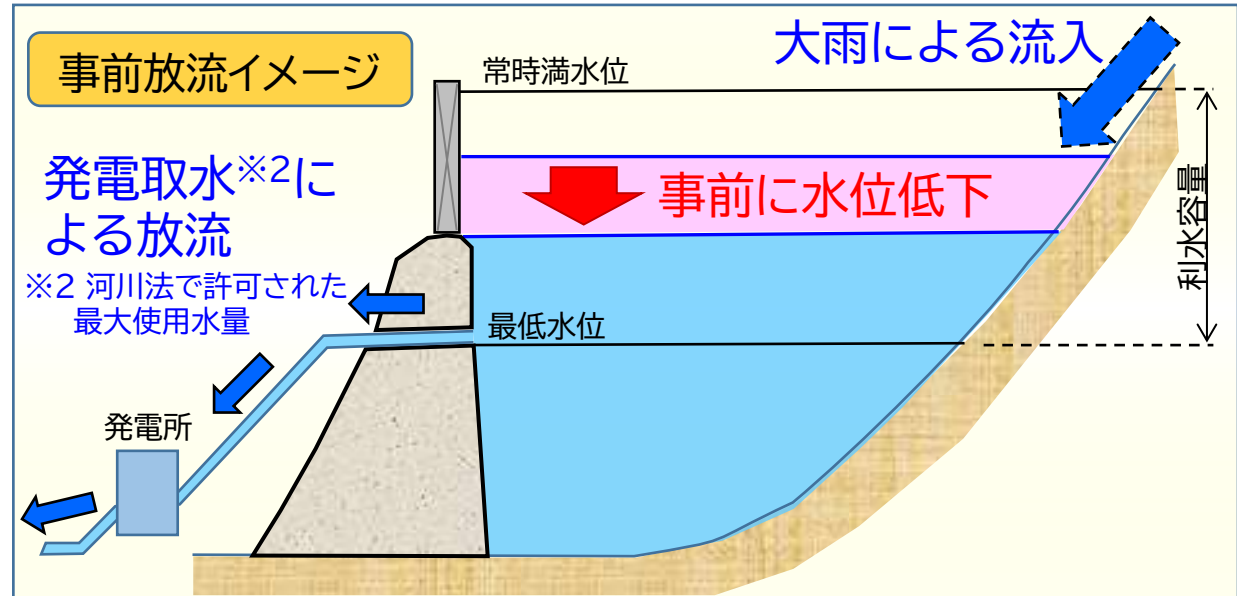
※¹ ダム上流域の予測降雨量が基準雨量(162mm/6時間)以上

黒瀬川水系 二級ダム

(所有者:広島県、管理:中国電力)



- 二級ダムは、洪水調節容量を持たないが、あらかじめ発電により水位を下げ、**利水容量の一部を治水に活用**。
- 事前放流により確保できる容量(洪水調節可能容量)は、最大で93.2万 m^3



河川改修

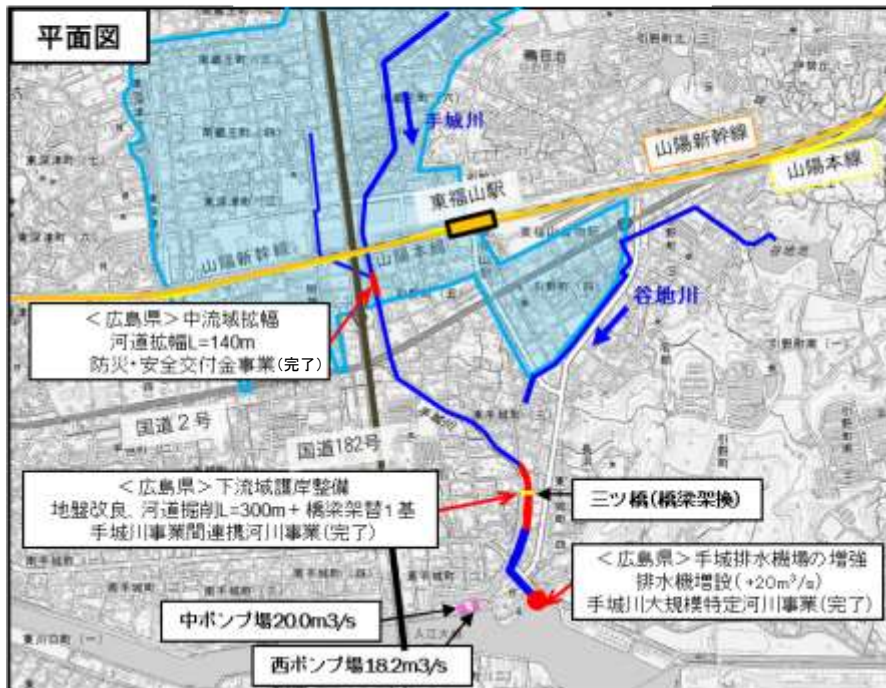
- 手城川水系手城川は、平成30年7月豪雨において、最大日雨量243mm(最大時間雨量29mm)の降雨により、甚大な浸水被害が発生した。
- 令和元年9月に河川管理者(広島県・福山市)と下水道管理者(福山市)が共同で100mm/h安心プランを策定し、床上浸水被害の解消に向けた事業を実施。(河道掘削等を実施)

位置図



事業内容

河川名 : 二級河川手城川水系 手城川
 事業内容 : 河道掘削、橋梁架替
 事業期間 : R2~R7



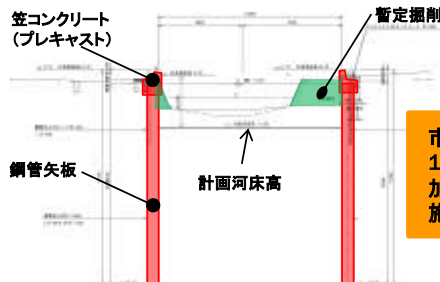
■ 下流域護岸整備(地盤改良、河床掘削:L=300m、橋梁架換:1基)

河道貯留効果を高め、排水機場の排水能力を効果的に活用する。



完成写真

■ 中流域拡幅(河道拡幅L=140m)



市ポンプ場からの排水
17.4m³/sによる水位増加を防ぐため拡幅を実施する



完成写真

河川改修

- 広島県竹原市の本川水系本川では、令和3年7月洪水により、床上浸水90戸、床下浸水166戸の甚大な浸水被害が発生した。
- **河道掘削、橋梁架替、排水ポンプの整備等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図る。**

位置図

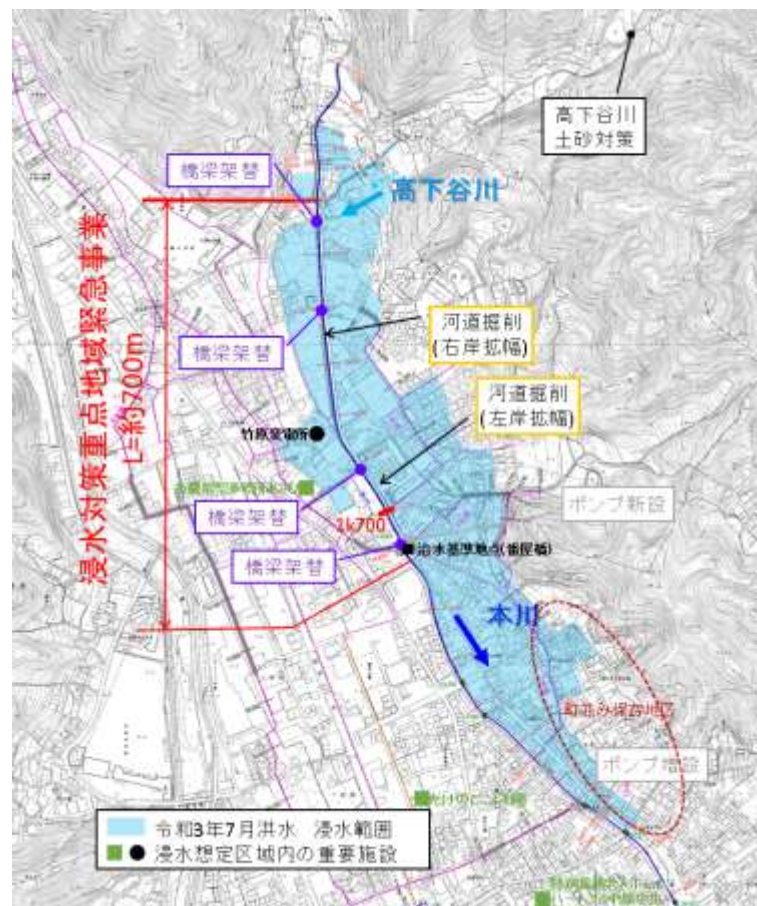
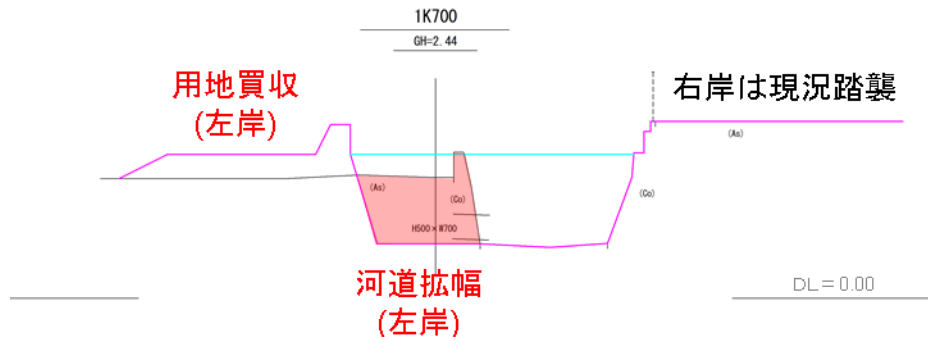


事業内容

令和3年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害解消を目的として、河道掘削、橋梁架替を実施。

- ・事業延長 L=約700m
- ・事業期間 R3~R8

事業イメージ (1k700地点)



河川改修

- 平成11年6月洪水により床上浸水1戸、床下浸水18戸の浸水被害が発生。
- 平成15年11月に整備計画(1/10)を策定し、**河川改修**を進めている。

■実施箇所

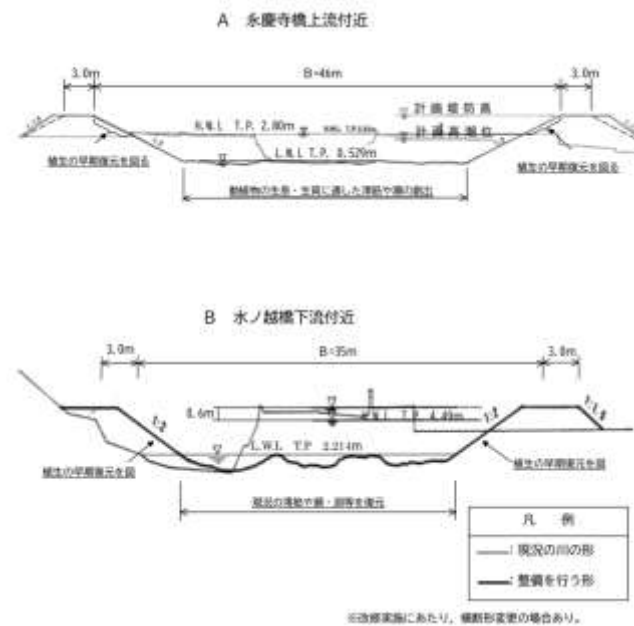
河川改修: 縄田橋上流
 ~中津岡川合流点上流(L=0.5km)

■効果

河川改修: 浸水被害の解消



位置図



横断面図

河川改修

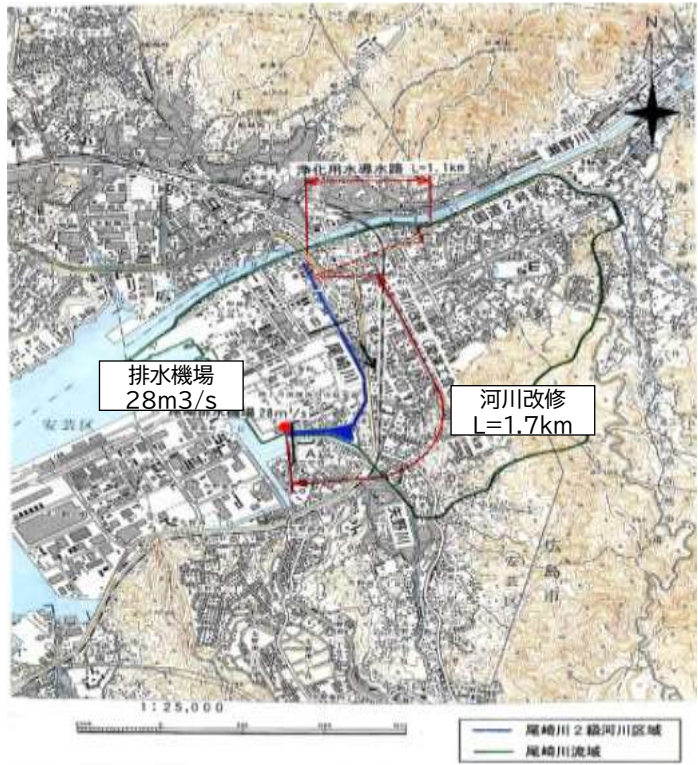
● 河口部尾崎排水機の排水能力(現況9m³/s)を28m³/sにまで向上させるとともに、排水能力を超える流入水を河川内に安全に貯留するため、**河床掘削を主体とした河川改修を実施。**

■実施箇所(尾崎川)

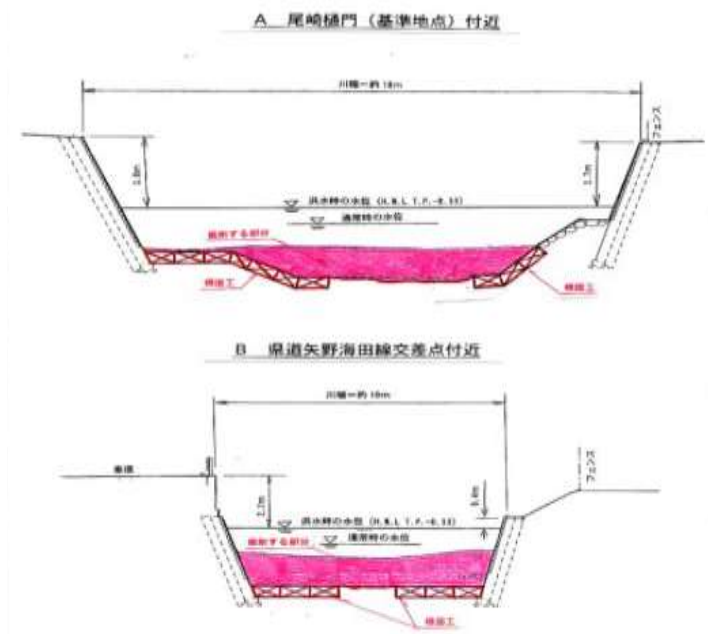
排水機場: 下記位置図のとおり
河川改修: 海田高校前地点～河口までの約1.7km

■効果

既往最大規模の降雨により発生すると想定される洪水氾濫から浸水被害を防御する。



位置図



横断面図

※ 動植物の生息・生育環境に配慮し、掘削工等の構造を適切に測定するとともに、河床形状に変化を持たせず。

河川改修

- 平成30年7月豪雨により、広島県管理区間の沼田川流域において、床上浸水2,137戸、床下浸水346戸の甚大な浸水被害が発生した。
- 改良復旧(河川激甚災害対策特別緊急事業)により、築堤、河道掘削等を**緊急的に実施**することで流下能力を向上させ、同程度の洪水による**家屋浸水被害の解消**を図る。

位置図

二級河川沼田川水系
沼田川外(三原市)



事業目的

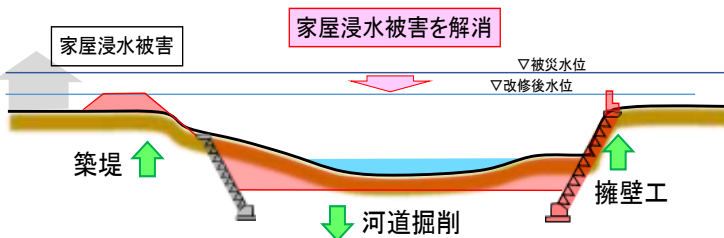
平成30年7月豪雨に対する河川からの越水・溢水による家屋浸水被害解消

事業内容

築堤・護岸整備

河道掘削、堰改築等による河積の確保

事業イメージ



洪水氾濫対策

河川改修

- 平成30年7月豪雨により、広島県管理区間の内神川において、床上浸水14戸、床下浸水2戸の浸水被害が発生した。
- **分水路の整備等を集中的に実施し、早期に地域の安全性の向上を図る。**

位置図



二級河川堺川水系
内神川(呉市)

呉市街地浸水状況(H30年7月)



浸水戸数

	床下浸水	床上浸水	備考
平成11年	640戸	821戸	呉市全体の数値
平成21年		1戸	
平成22年	1戸		
平成30年	2戸	14戸	

整備状況(R7.10)



事業内容

平成21年7月、平成22年7月、平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害解消を目的として、分水路の整備等を実施。

- ・対象河川 堺川、内神川
- ・事業延長
L=440m(内神川)
120m(堺川)

事業イメージ

◆ A-A断面(河川体育公園)河川拡削

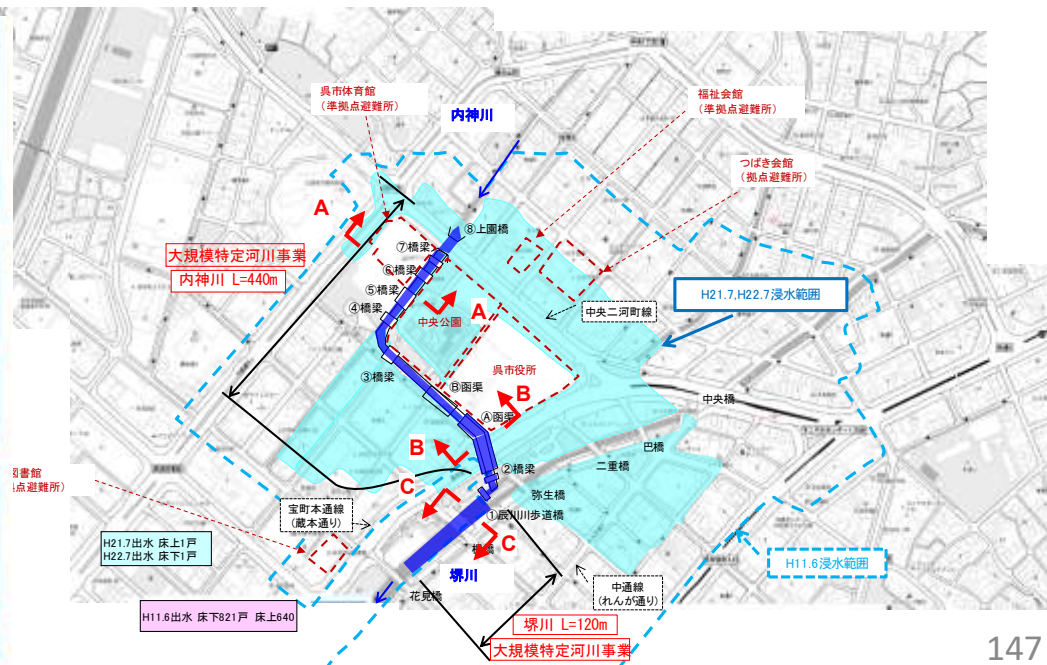
河川の流下断面を確保するため、河床を拡削します。

◆ B-B断面(蔵本通り)地下水路

蔵本通りの下には新たに地下水路(涵洞工)を設置します。

◆ C-C断面(寶川)河床拡削

宝川の流下断面を確保するため、河床を拡削します。



河川改修

- 仁賀ダム調節後の洪水流量を安全に流下させること及び異常な高潮から防御するため、**河川改修(引堤及び河床掘削)**を実施。

■実施箇所(賀茂川)

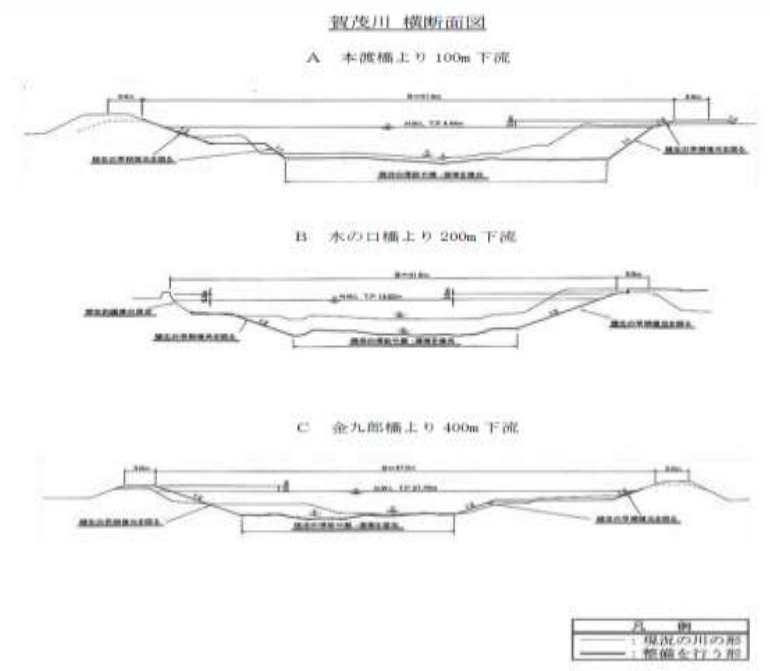
河川改修：河口～葛子川合流点(L=8.2 km)



位置図

■効果

河川改修及び仁賀ダムの建設により、既往最大規模となった昭和42年7月洪水相当の降雨により発生すると想定される洪水から家屋連担地区を防御する。



横断面図

洪水氾濫対策

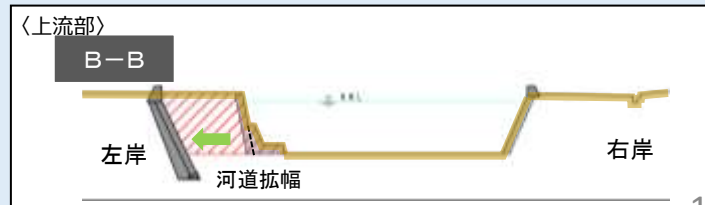
河川改修

- 令和3年7月豪雨により、三津大川(東広島市安芸津町三津)において、河川の氾濫により甚大な家屋等浸水被害が発生したことから、一連区間における河道拡幅や橋梁架替等による改良復旧を行い、令和3年7月豪雨相当の洪水から市街地における浸水被害を防止する。



対策手法

河道を拡幅したり、橋梁を架け替えるなど、河道の断面を大きくし、流下能力を向上させます。



河川改修

- 二級河川野呂川水系中畑川は、呉市安浦町の住宅密集地を流下する河川であり、平成30年7月豪雨において最大日雨量232mmの降雨により甚大な被害が発生した。
- そのため、**河道拡幅等を実施**し、地域の安全性の向上を図る。

位置図

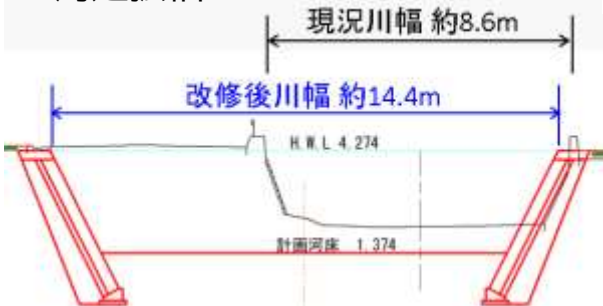


事業内容

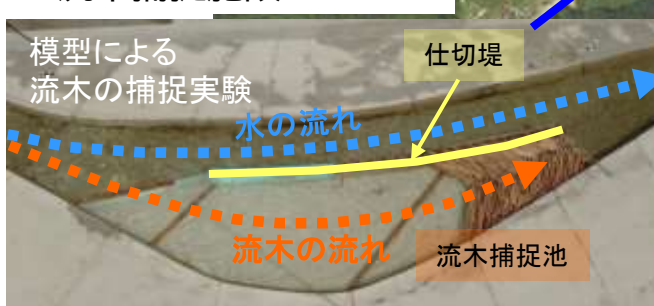
平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害を目的として、河道拡幅を行うとともに、河道閉塞の要因となった流木対策を実施する。

- ・河道拡幅 L=1.4km(流木捕捉施設を含む)
- ・流木捕捉施設 L=0.4km

河道拡幅イメージ



流木捕捉施設イメージ



被災状況

浸水面積 約60ha
床上浸水 148戸
床下浸水 161戸



橋梁部の河道閉塞状況



河川改修(高潮対策)

- 現在整備中の高潮堤防高との整合を図り、1/30年確率の波浪や耐震も考慮した構造とする
とともに、**高潮堤防を両岸ともにパラペット天端高T.P.+4.62m**とする。

■実施箇所(藤井川)

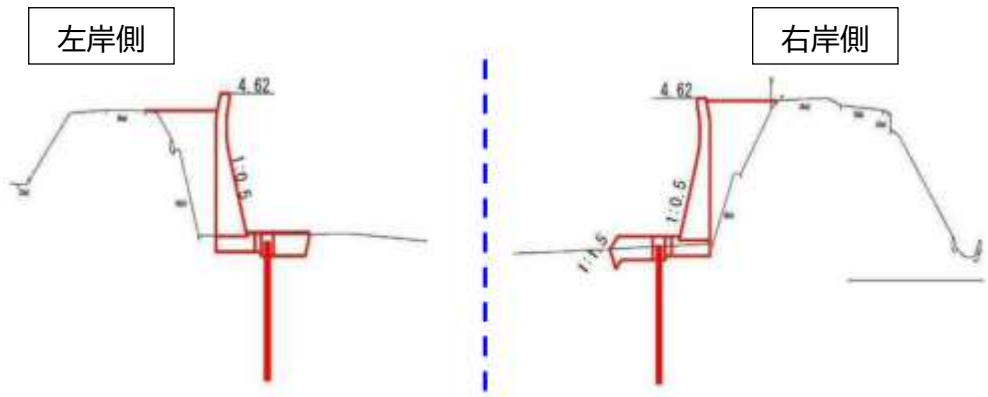
高潮対策：河口～約375m区間(左右岸)



位置図

■効果

河口部におけるゼロメートル地帯を高潮被害から防護するため、海岸保全区域において実施している高潮対策事業と連携し一定範囲の連続性を持った整備を行うことで、沿岸地域の浸水被害を防止する。



※実施に際しては、今後の調査・測量結果により、護岸の構造が変更になる場合もあります。

横断面図

利水ダム等における事前放流の実施・体制構築

- ダムの利水容量の一部を洪水調節に活用することにより、ダムの洪水調節機能を強化し、ダム下流の洪水被害軽減等を図る。(令和2年度～)

■ 効果・目的

計画規模やダム等の施設能力を上回るような洪水が予想された場合に、ダムの利水容量の一部を洪水の発生前に放流し、洪水調節容量を一時的に増やすことで、ダム下流河川の沿川における洪水被害の防止・軽減を目的とする。

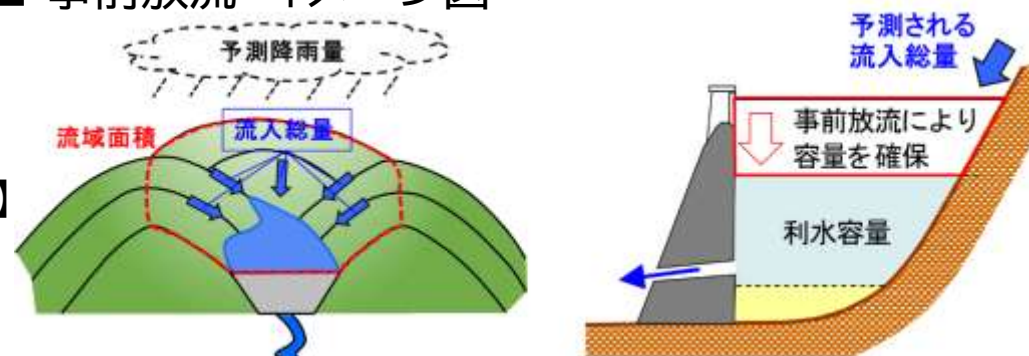
■ 経緯

令和2年4月 事前放流ガイドライン策定
 令和2年8月 治水協定の締結(県管理二級河川)
 令和2年9月 事前放流の開始(県管理ダム)

■ 治水協定を締結したダム【二級河川(県管理)】

水系名	河川名	ダム名	ダム管理者
八幡川	八幡川	魚切ダム	広島県
		梶毛ダム	
二河川	二河川	本庄ダム	呉市
黒瀬川	黒瀬川	二級ダム	広島県
		三永ダム	呉市
賀茂川	賀茂川	仁賀ダム	広島県
	葛子川	千丈ヶ原ダム	東広島市
沼田川	棕梨川	棕梨ダム	広島県
	沼田川	福富ダム	
	大草川	三河ダム	三原市
藤井川	木門田川	竜泉寺ダム	藤井川沿岸土地改良区
6水系	9河川	11ダム	県管理6ダム

■ 事前放流 イメージ図



■ 令和6年度実績

【県管理ダム】

ダム名	実施期間
御調ダム	8/27
山田川ダム	8/27
小瀬川ダム	8/27～8/29
棕梨ダム	8/29

■ 令和7年度実績なし

山地の保水機能の向上

森林整備

- 森林整備事業(造林事業)として、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、林産物の供給等の森林の有する多面的機能の維持・増進を目的に**植栽、保育や間伐等の森林整備**を実施。



山地の保水機能の向上

治山事業

- 治山事業は、森林(保安林)の維持造成を通じて、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等を図る事業。
- 今後、気候変動がより一層激化する見込みであることを踏まえ、近年の激甚な災害を受けた課題として挙げられる、**流木対策、巨石や土石流対策等を実施。**

■ ~流木対策を強化~



- 保安林の適正な配備
- 土留工等による表面侵食の防止 等



流木化する可能性の高い立木

- 流木化する可能性の高い立木の伐採による下流域の被害拡大の抑制
- 流木捕捉式治山ダムの設置等による効果的な流木の捕捉 等



流木捕捉式治山ダム

- 森林を緩衝林として機能させることによる堆砂の促進や流木の捕捉
- 治山ダムの設置等による溪床の安定や流木の流出拡大防止 等



緩衝林として機能した森林

■ ~巨石や土石流対策等を組み合わせる複合防御型の対策の推進~



- 保安林の適正な配備
- 土留工等のきめ細かな施工
- 治山ダムを階段状に設置

- ワイヤーによる巨石の固定や流下エネルギーに対応したワイヤーネットによる防護工、治山ダムの整備
- 既設治山ダム等に異常堆積している土石・流木の排土・除去



(参考)ワイヤーネットやスリットダムによる土石や流木の捕捉

- 航空レーザ計測等の活用、地域住民等との連携等による山地災害危険地区等の定期点検の実施
- 山地災害発生リスクに関する情報の周知徹底

砂防堰堤等の整備

- 今後も激甚化が懸念される土砂災害から県民の命と暮らしを守るため、住宅密集地や災害時に重要な役割を担う防災拠点、インフラ・ライフラインなどを保全する**砂防堰堤等の整備**に取り組み、効果的な事前防災対策を推進する。

■実施箇所

ブロック名	水系名	市町	箇所数
西ブロック	八幡川水系	広島市	3
	瀬野川水系	広島市、海田町、熊野町	12
	御手洗川水系	廿日市市	3
	可愛川水系	廿日市市	4
	岡ノ下川水系	広島市	1
	総頭川水系	坂町	1
計			24

■取組内容(イメージ)



砂防堰堤の整備



急傾斜地崩壊防止施設の整備

■実施期間

令和3年度～令和7年度

砂防堰堤等の整備

- 今後も激甚化が懸念される土砂災害から県民の命と暮らしを守るため、住宅密集地や災害時に重要な役割を担う防災拠点、インフラ・ライフラインなどを保全する**砂防堰堤等の整備**に取り組み、効果的な事前防災対策を推進する。

■実施箇所

ブロック名	水系名	市町	箇所数
東ブロック	手城川水系	福山市	1

■実施期間

令和3年度～令和7年度

■取組内容(イメージ)



砂防堰堤の整備



急傾斜地崩壊防止施設の整備

砂防堰堤等の整備

- 今後も激甚化が懸念される土砂災害から県民の命と暮らしを守るため、住宅密集地や災害時に重要な役割を担う防災拠点、インフラ・ライフラインなどを保全する**砂防堰堤等の整備**に取り組み、効果的な事前防災対策を推進する。

■実施箇所

ブロック名	水系名	市町	箇所数
中央ブロック	二河川水系	呉市、熊野町	1
	堺川水系	呉市	3
	黒瀬川水系	呉市、東広島市	3
	賀茂川水系	竹原市、東広島市	3
	沼田川水系	三原市、東広島市	15
	和久原川水系	三原市	4
	本川水系	竹原市	2
	原田川水系	大崎上島町	1
	小原川水系	大崎上島町	1
	計		33

■取組内容(イメージ)



砂防堰堤の整備



急傾斜地崩壊防止施設の整備

■実施期間

令和3年度～令和7年度

ハザードマップの作成・周知

河川監視カメラの設置

- 河川防災情報の更なる充実・強化を図るため、**河川監視カメラの設置拡充**を実施し、水害リスク情報の提供を行っている。

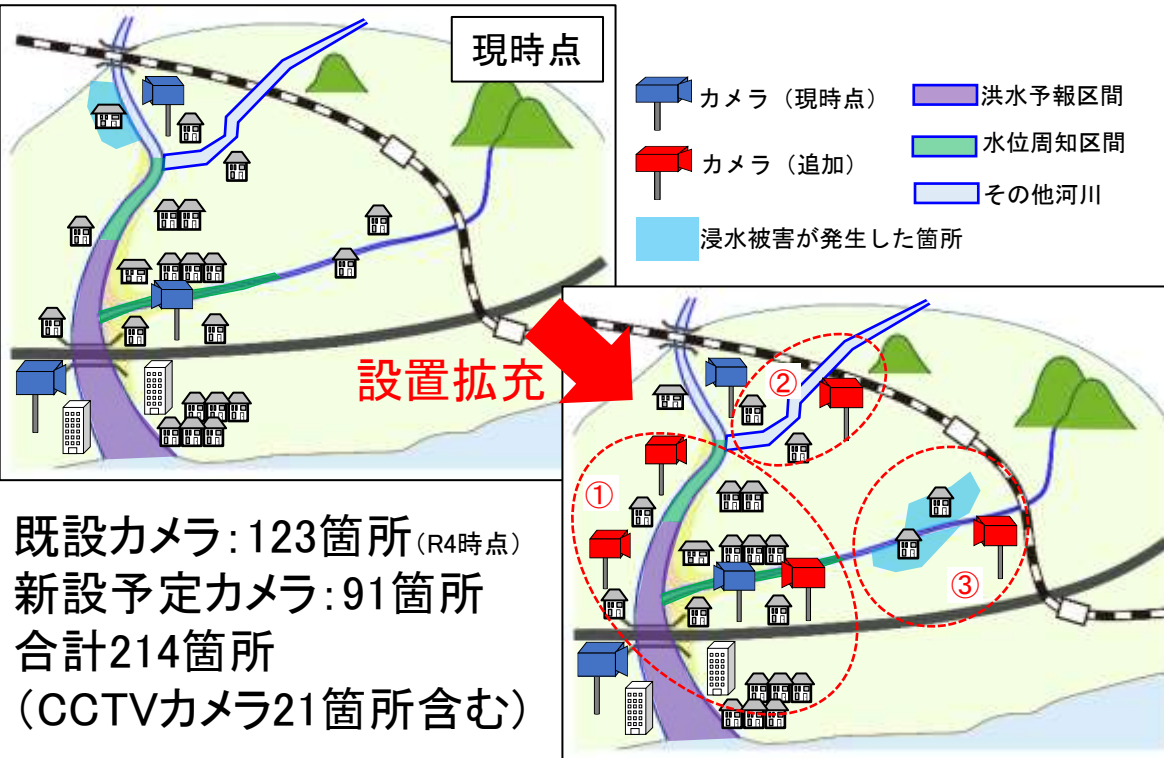
■実施概要

計画作成にあたっての設置の方針は次のとおり。

- ①人口・資産が集積する洪水予報区間・水位周知区間への設置拡充
- ②その他河川において住民の避難判断に役立つと考えられる箇所
- ③近年洪水により浸水被害が発生した箇所

■カメラ画像の閲覧先

・河川監視カメラの画像については、インフラマネジメント基盤DoboXの「カメラマップ」や国土交通省ホームページ「川の防災情報」において、公開している。



既設カメラ: 123箇所 (R4時点)
 新設予定カメラ: 91箇所
 合計214箇所
 (CCTVカメラ21箇所含む)



項目	現時点		追加	箇所数
	CCTV	簡易型	簡易型	
洪水予報河川・水位周知河川 (61河川)	19	66	35 (①)	120
その他河川 (436河川)	2	36	56 (②・③)	94
合計	21	102	91	214

関係機関との各種連携

- 内水氾濫等による浸水被害の早期解消を図るため、**排水ポンプ車を配備**。
- 排水ポンプ車は、災害時の浸水被害への対策として有効な防災機材であり、**市町からの要請により緊急時の広域な応援派遣が可能**である。

■運用状況

本県では西部建設事務所に1台、東部建設事務所1台、三原支所1台配備し、国と県で連携して、排水ポンプ車の全県的な運用を実施している。

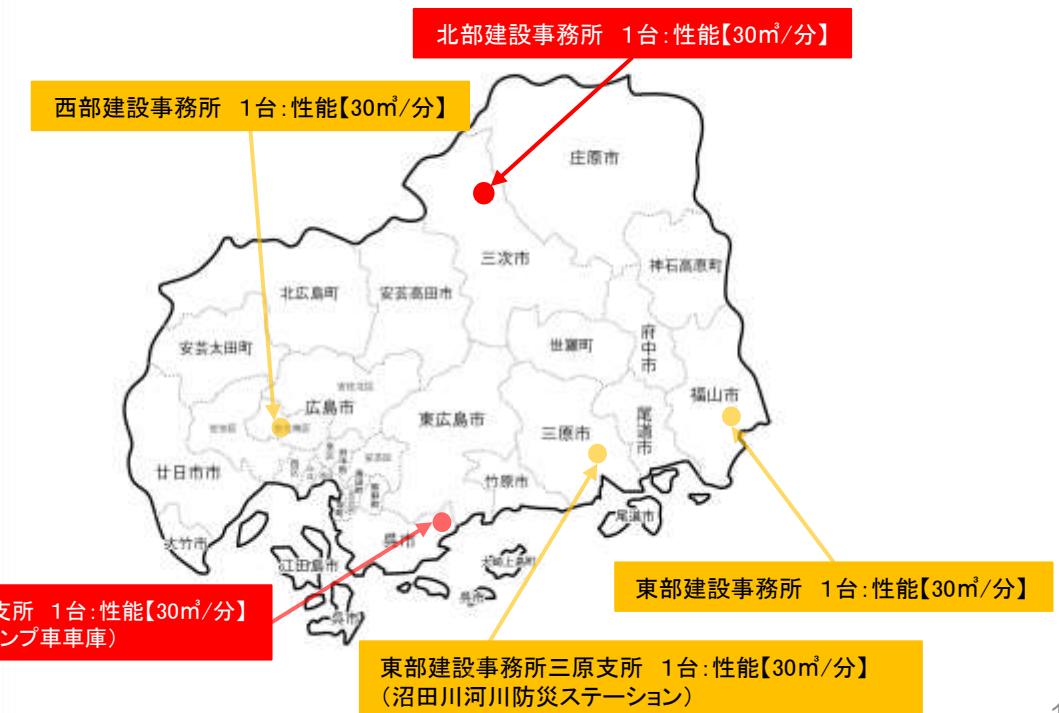
令和5年4月に呉支所へ1台、北部建設事務所へ1台新たに配備した。



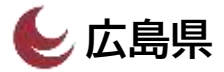
排水ポンプ車外観



排水作業状況 (R3.7天井川)



水害リスクマップ・多段階浸水想定図の作成・公表



- **防災まちづくり**の検討に活用してもらうため、二級河川において**水害リスクマップ(洪水頻度図)**及び**多段階の浸水想定図**を作成・公表。

水害リスクマップ

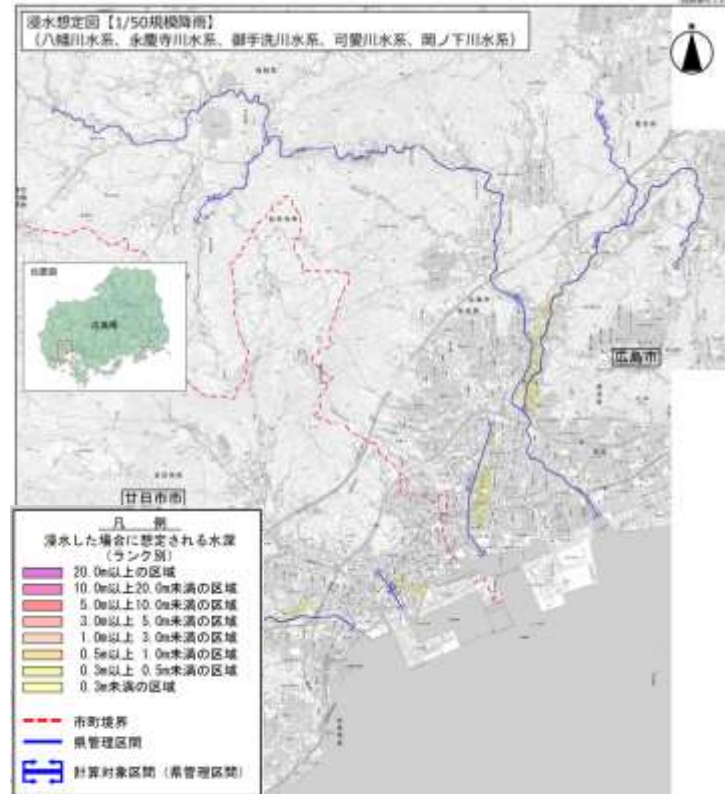
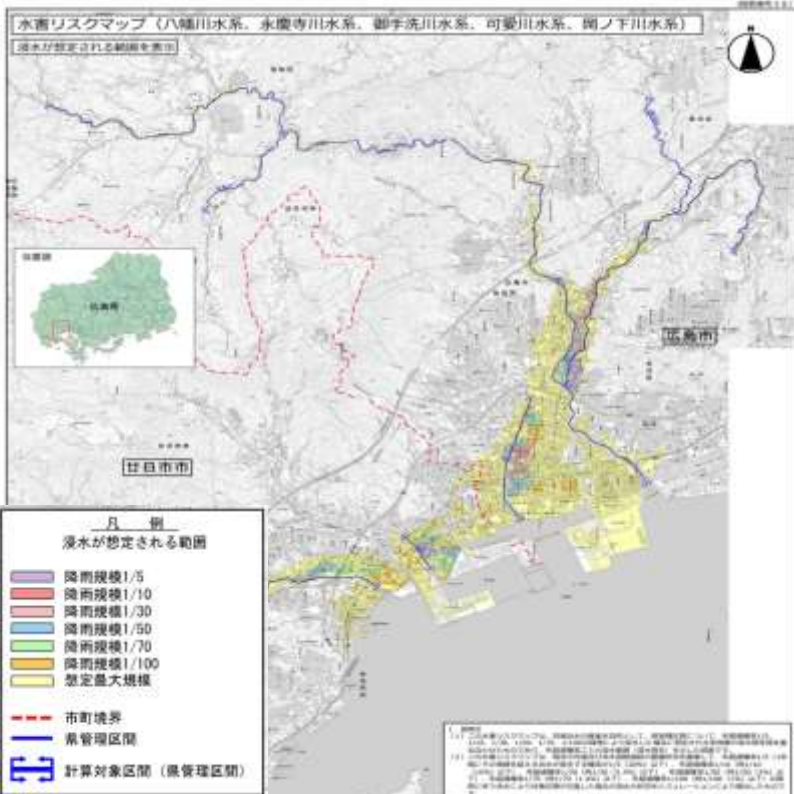
浸水あり (浸水深0.0m以上)	床上浸水相当 (浸水深0.5m以上)	一階居室浸水相当 (浸水深3.0m以上)
---------------------	-----------------------	-------------------------

多段階の浸水想定区域

1/5	1/10	1/30	1/50	1/70	1/100
-----	------	------	------	------	-------

公表河川

- 八幡川
- 永慶寺川
- 御手洗川
- 可愛川
- 岡ノ下川
- 瀬野川
- 野呂川
- 木谷郷川
- 高野川
- 蛇道川
- 三津大川
- 賀茂川
- 本川
- 山南川
- 本谷川
- 手城川
- 藤井川
- 本郷川
- 羽原川
- 新川
- 栗原川
- 大田川
- 才戸川
- 大河原川
- 永田川
- 小鹿野川
- 田中川
- 高田川
- 大長川
- 原田川
- 原下川
- 小原川



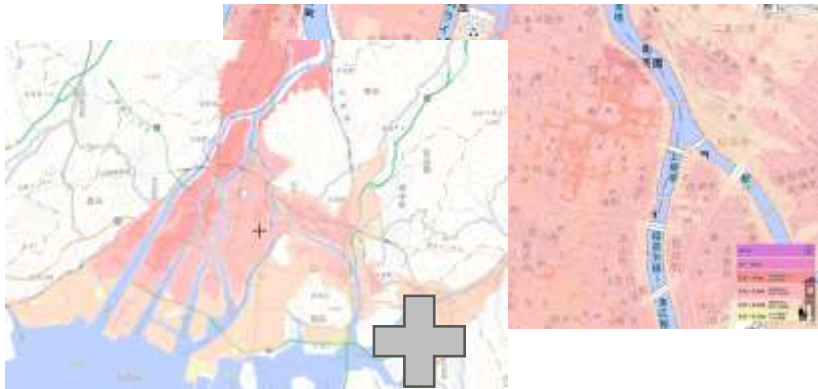
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/suigai-riskmap.html>

ハザードマップの作成・周知

まるごと・まちごとハザードマップの拡充

- 生活空間である“まちなか”に浸水深を示した表示板を設置し、水防災に係る情報を周知する。
- 令和5年度より実施し、今後も設置の拡充に努めていく。

洪水ハザードマップ



まるごとまちごとハザードマップ

- まちなかにあるので、無意識に目に入る
- 浸水深や避難所の情報を得やすくなる
- 浸水深を感覚的に理解できる



洪水ハザードマップの内容をそれぞれの地域で具体的に、臨場感を持って認識し、避難の実効性を高める

・尾道市 御調西小学校(フェンス)



・東広島市 小谷小学校(壁面)



令和5年度	令和6年度	令和7年度 予定	
東広島市、竹原市、尾道市、府中町 (32箇所)	呉市、大崎上島町、江田島市 (21箇所)	熊野町、福山市、三次市、府中市、庄原市、大竹市、海田町、世羅町、安芸太田町(63箇所)	

報道機関への説明会の実施

- 水害や土砂災害に関する報道機関への説明会を実施
- 令和2年度より実施しており、今後も報道機関の方々の知識を再確認していただく

説明会 次第（令和7年度）

3 次第

- (1) 土砂災害に関する基礎的情報と取組について【砂防課】(25分)
 - 土砂災害について
 - 土砂災害の対策について
- (2) ため池に係る取組について【ため池・農地防災担当】(15分)
 - ため池総合対策について
 - 農地・農業用施設災害復旧事業について
- (3) 県民の避難行動の促進に係る取組について【みんなで減災推進課】(10分)
 - 防災教育について
 - LINE版マイ・タイムライン「わが家の避難計画」について
 - 地域の防災活動におけるマイ・タイムラインの普及促進について
 - 広島県「みんなで減災」備えるフェアについて
- (4) 水害に関する基礎的情報と取組について【河川課】(25分)
 - 近年の豪雨災害の概要
 - 河川に関する基礎知識
 - 水害リスク情報の充実・強化に関する取組
 - 濁水について
 - 流域治水の取組
 - サイトの紹介
- (5) 質疑応答 (15分)



実施状況写真（令和5年度）